

# JAPIA NEWS

2016  
5・6

隔月刊  
(通巻713号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特集

## 情報セキュリティ対策

—企業認識と実事件の乖離、今企業がうつべき対策とは—

新連載 企業の海外危機管理講座 Vol.1

悪化する世界の治安と  
日本企業の海外安全対策の実態

第15回技術展示商談会アンケート調査

支部活動レポート

中部支部

会員企業紹介

大野ゴム工業株式会社



地球を舞台にしたスポーツは、  
自分勝手なルールではゴールできない。

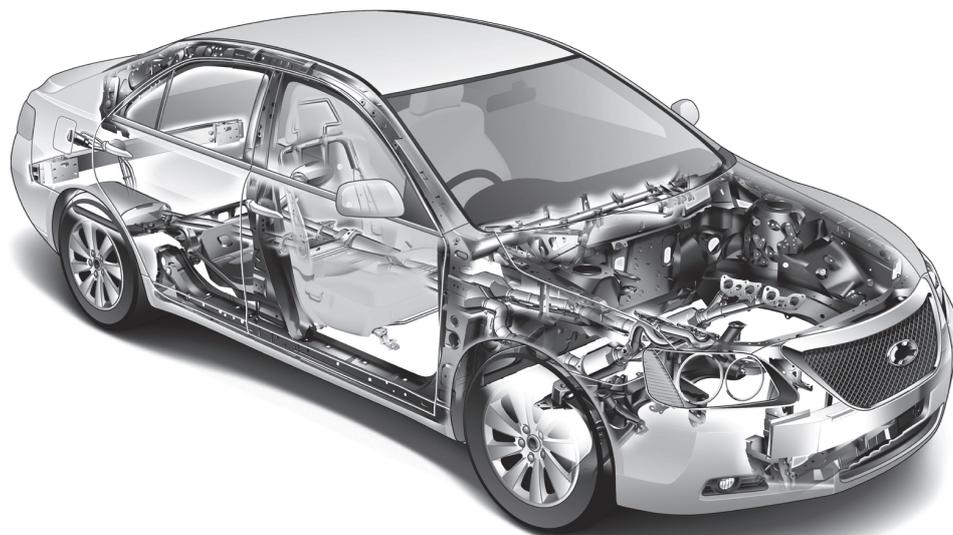
デンソーは、この惑星を走るランナーとして  
環境技術を進化させる。

地球とクルマの調和のために。

ホ シ  
この惑星を技術で守りたい。

**DENSO**

# モノづくりで社会に貢献する。



**フタバ産業株式会社** 岡崎市橋目町字御茶屋1番地

中国へ  
アジアへ  
シフトアップ!



**ANA**

大連・天津・武漢・広州・バンコク・ジャカルタ線  
**週216便<sup>※</sup>の輸送力**

多くの自動車関連企業が、生産・物流拠点をおく中国・アジアと日本間の輸送をもっと早く、タイムリーに。ANA Cargoなら、クルマの部品などの急な輸送にもスピーディーに対応します。

ますます広がるANA Cargoのネットワークを、お客様のビジネス戦略に合わせてお役立てください。

**お急ぎならANA Cargoが、お応えします。**

**ANA Cargo**

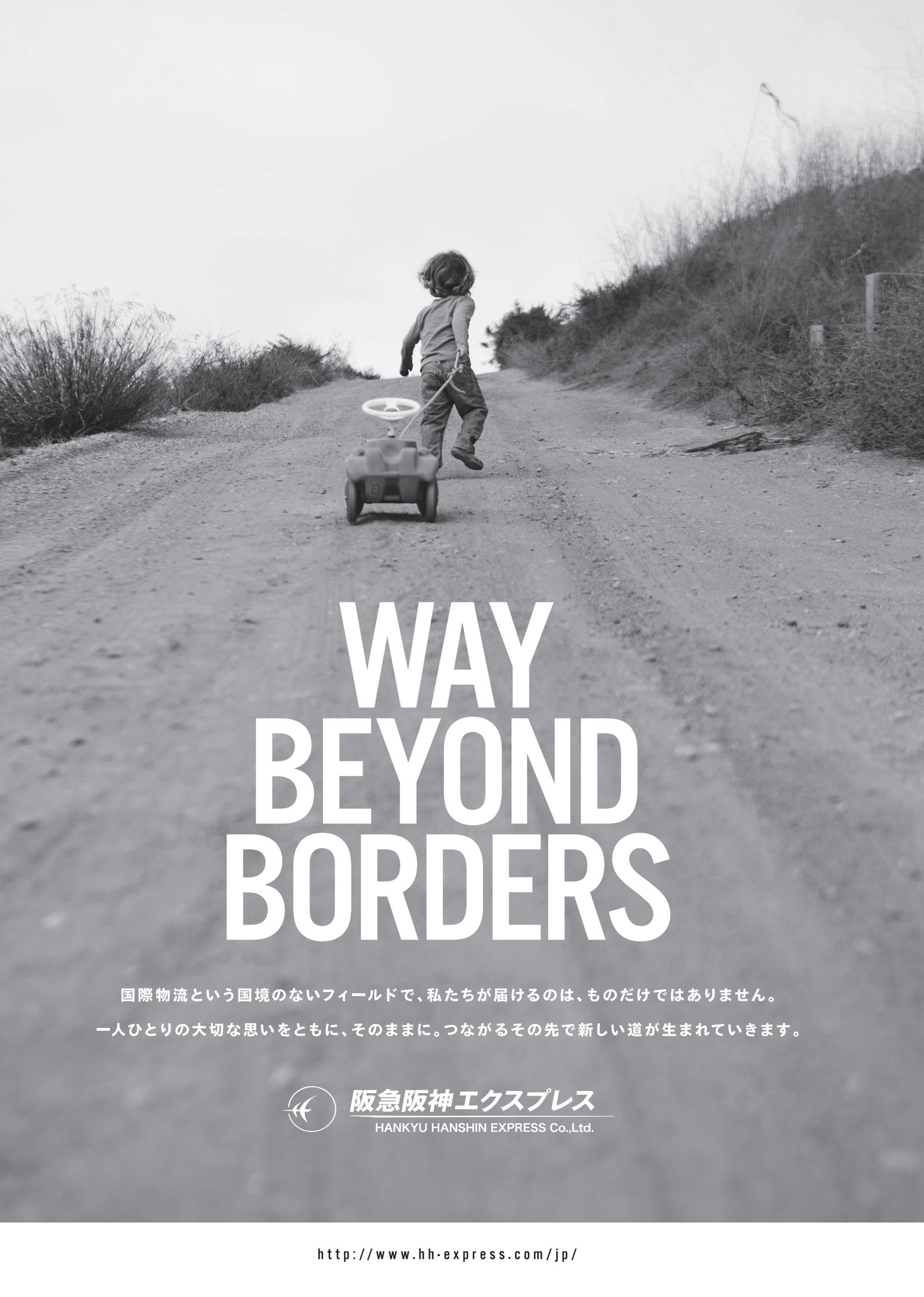
※旅客便と貨物便を合わせた往復の便数(2016年5月16日現在)

東京 03-6735-1960 / 大阪 06-6450-9955 / 名古屋 052-586-9440  
札幌 011-271-1534 / 福岡 092-720-3380 / 沖縄 098-859-7252

**ANA CARGO**

検索





# WAY BEYOND BORDERS

国際物流という国境のないフィールドで、私たちが届けるのは、ものだけではありません。  
一人ひとりの大切な思いをともに、そのままに。つながるその先で新しい道が生まれていきます。



**阪急阪神エクスプレス**

HANKYU HANSHIN EXPRESS Co.,Ltd.

# イワタボルトの グローバルネットワーク



## 国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

## 海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・  
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ・カナダ

## 認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
アメリカ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA,INC	2010年9月	FM549851	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA,INC	2010年3月	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2009年7月	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2010年9月	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQI
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TUV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TUV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TUV NORD

# 【18】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

**Koito**

## 安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。  
小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして  
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

**株式会社小糸製作所**  
〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号  
TEL: 03-3443-7111(代表) <http://www.koito.co.jp>

# 巻頭言

Introduction

## 会員企業の グローバル戦略策定に 役立つために尽力



一般社団法人日本自動車部品工業会  
副会長・藤森 文雄

[アイシン精機株式会社 取締役副会長]

今年11月に行われる米国大統領選挙の予備選が、毎週のようにニュースを賑わせています。特に共和党候補の不動産王ドナルド・トランプ氏の数々の発言が波紋を呼ぶ一方、『Make America great again (偉大なアメリカを再び)』のスローガンが言われています。これは年々相対的に社会的立場が弱くなってきた大多数の中間所得層が感じている不安あるいは願望を突いている点が、支持を得ているという事でしょう。

彼は幾つかの政策提言の中でTPPにも反対しています。『TPPはアメリカの仕事を減らす』という訳ですが、昨年10月になり、民主党の最有力候補であるヒラリー・クリントン氏も、ほぼ同じ主張によりTPP反対派に転じました。

周知の通り、一部例外品目を除き自動車部品の米国関税はTPP発効後、即時撤廃で合意されており、日本製品の競争力強化に大きく期待が寄せられております。オバマ政権でのTPP関連法案の議会通過が難しいとされている状況下、アメリカ大統領予備選には今後特に注視していきたいと思えます。

TPP、日・EU、あるいはRCEPというメガFTAは、加盟国それぞれの強みを活かす方向で域内分業を促進するという側面を持ちます。これは企業に採り、『どの国で何を作りどこへ納めるのか』というグローバルな事業展開の選択肢を広げるものであり、さらなる競争力強化を目指し環境変化に適応する戦略を早い段階で策定する事が、今後ますます重要になってくると思います。

2016-17年の世界経済を展望しますと、アメリカを始め先進国の緩やかな回復を期待する一方、これまでのように新興国が成長を牽引する事は、もはや難しいのではと思われまます。しかし中長期的にその重要性が変わるものではありません。あるシンクタンクの推計によりますと、車両重量3.5トン以下の車両の2020年の世界総販売台数1億500万台の内、BRICsで43%を占め、日本、北米、欧州、韓国合計の42%を上回るという事です（2014年はBRICs37%、日米欧韓48%）。我々部品業界はメガFTAの動向を注視しながら、今後とも成長を続ける

と見込まれる市場において供給能力を付けていく事が、やはり成長のキーと言えるでしょう。

当工業会国際委員会におきまして、昨年度の重点事業のひとつとして『EPAマトリックスの構築』に取り組みました。従来国内では調べ難かった、例えばインドネシア対マレーシアなど第3国間取引にて発生する関税、原産地証明取得方法等、輸出入実態を整理したのですが、詳細を網羅するあまり、なかなか会員企業の皆様には、利用しやすい物では無かったのではと言う懸念がありました。そこで本年度はその内容をさらに簡素化した新規ツールを作成する事で、会員の皆様のグローバル戦略策定によりお役に立ちたいと考えております。

今年度も引き続き国際物流改善、模倣品対策、関税引下げへの取り組み、知財権戦略セミナー開催等、着実に課題解決に取り組んでまいりますので、今後とも御支援、御協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

特集

# 情報セキュリティ対策

—企業認識と実事件の乖離、今企業がうつべき対策とは—

日本ユニシス株式会社

セキュリティスペシャリスト 井上 寛

## 企業におけるセキュリティ脅威は外部攻撃と社外漏洩

企業におけるセキュリティ脅威は外部攻撃と社内漏洩に大別できます。

外部攻撃は特定人物を対象に情報を搾取する標的型攻撃と、企業の情報発信手段であるWebサーバを利用不能にしたり、他悪サイトへ誘導したりする攻撃があります。

一方、社外漏洩は社員が意図的に利害目的のため情報を社外に持ち出しする情報搾取と、不注意等による誤操作があります。

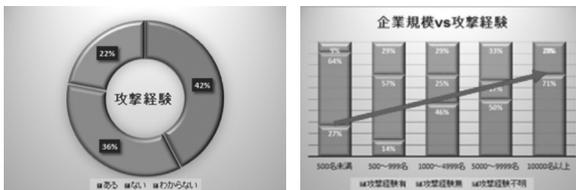
企業はこうしたセキュリティ脅威への対策を検討・実施する必要があります。

しかし、現実ではセキュリティ事件・事故が日々、繰り返り、多発しています。

## 小規模企業では外部攻撃を受けていないが、将来的には受ける可能性があり対策要

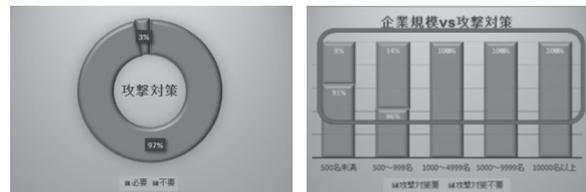
JAPIA会員企業に事前にアンケートを実施させて頂きました。

4割の企業が実際に外部攻撃を受けており、会社規模と比例して攻撃経験が増加する傾向にあります。



攻撃経験有無に関係なく対策要の認識ですが、企

社規模によって対策要否が分かれています。

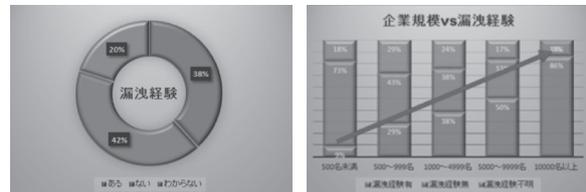


攻撃経験割合に比べ攻撃対策が必要と考える割合が高いことから、今攻撃を受けていなくても将来的に受ける可能性があり対策要の認識が高いと推測できます。

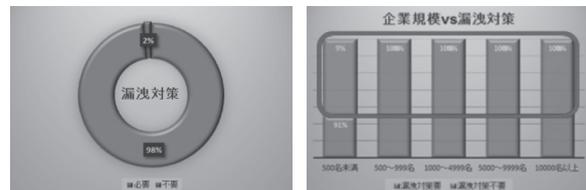
また、企業規模小は攻撃を受けておらず対策不要と認識していることが推測できます。

## 小規模企業では社外漏洩をしていないが、将来的には漏洩する可能性があり対策要

4割の企業が社外漏洩を経験しており、企業規模と比例して漏洩経験が増加する傾向にあります。



漏洩経験有無に関係なく対策要の認識ですが、企業規模によって対策要否が分かれています。



漏洩経験割合に比べ、漏洩対策が必要と考える割

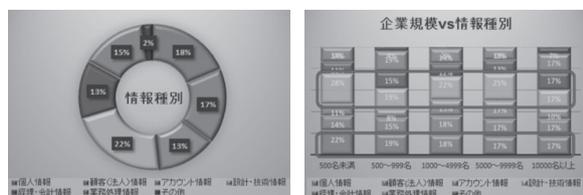
合が高いことから、今漏洩していなくても将来的に漏洩する可能性があり対策要の認識が高いと推測できます。

また、企業規模小は漏洩しておらず対策不要と認識していることが推測できます。

## 守るべき情報資産は設計・技術情報、個人情報、顧客（法人）情報

製造業では個人情報とは扱っていないと思われるのですが、守るべき情報資産は設計・技術情報、個人情報、顧客（法人）情報が上位を占めています。

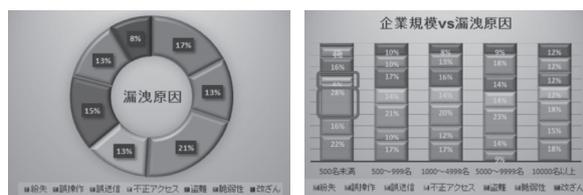
設計・技術情報、個人情報の重要性は企業規模小では高、企業規模大では低下する傾向があります。



## 危惧する漏洩原因はメール誤送信、紛失、盗難

漏洩手段は意図的ではなく、不注意が原因による誤送信、紛失、盗難、誤操作が上位を占めています。

企業規模小では自身が攻撃対象にならない認識からか、不正アクセスの重要性は低く、メール誤送信が高くなっています。

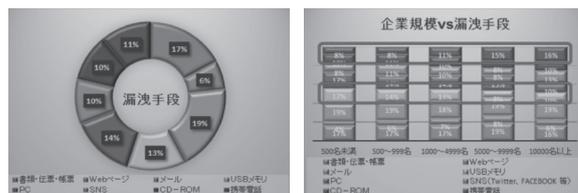


## 危惧する漏洩手段はメール、書類・伝票・帳票、PC / USBメモリー

漏洩手段はメール、書類・伝票・帳票、PC / USBメモリーが上位を占めています。

携帯電話は所持数の多い企業規模大が多く、企業規模小が少なくなっています。

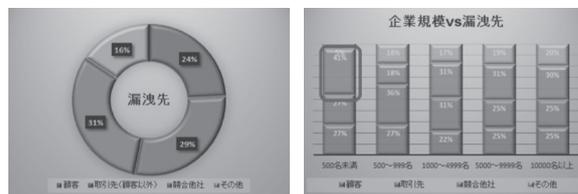
USBメモリーは企業規模大では禁止されていることが多く重要性は低ですが、企業規模小では高くなっています。



## 危惧する漏洩先は競合他社、取引先、顧客の順

漏洩先は競合他社、取引先、顧客の順になっています。

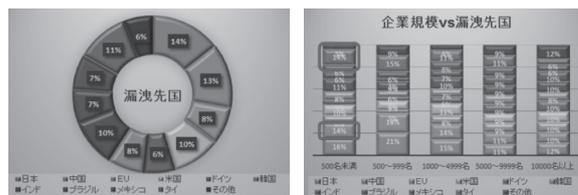
企業規模小では競合他社の重要性が高くなっています。



## 危惧する漏洩先国は日本、中国、タイ、インド、米国の順

漏洩先国は日本、中国、タイ、インド、米国の順になっています。

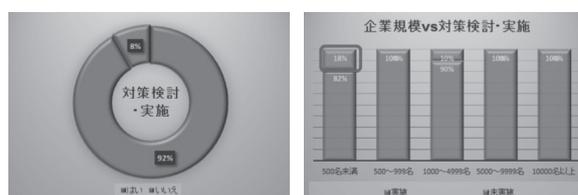
企業規模小ではタイ、中国の重要性が高い傾向にあります。



## 9割企業が情報セキュリティ対策実施・検討、小規模企業には未実施

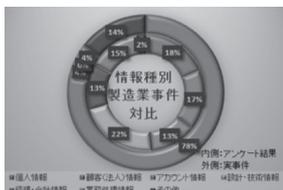
9割の企業が対策検討・実施の状況ですが、企業規模小では2割が未実施となっています。

これは、外部攻撃、社外漏洩ともに被害が無いために、対策が不要と認識されていると推測できます。



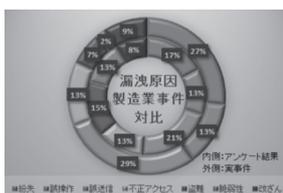
## 実事件の漏洩情報種別の8割を占める 個人情報情報が認識では2割

実事件で最多の個人情報情報は8割を占めますが、認識は2割にすぎず、潜在的可能性をひめています。



## 実事件の漏洩原因の3割を占める メール誤送信と紛失が認識では2割

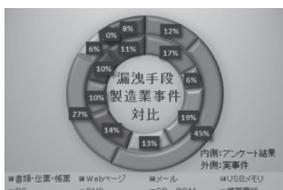
実事件のメール誤送信、紛失は共に3割を占めますが、認識は2割にすぎず、潜在的可能性をひめています。



## 実事件の漏洩手段の5割を占める WEBページが認識では1割

実事件のWebページは5割を占めますが、認識は1割に過ぎず、潜在的可能性をひめています。

また、実事件のメールは3割を占めますが、認識は2割に過ぎず、潜在的可能性をひめています。



## 企業におけるセキュリティ対策は 個別最適化ではなく全体最適化が必要

では、外部攻撃や社外漏洩の脅威にどういった対策が必要かを見ていきます。

セキュリティ対策はソリューションを導入すれば解決すると考える人もいますが、そうではありません。

最初にセキュリティポリシーとして、守るべき情報資産と、守る理由、責任者を定義します。

次に、対象となる情報資産の保管対象と脅威を洗

い出し、対策規定を決めます。

そして、対策規定を実現する手順をシステム化するものと、運用で対応するものに分けて決めます。

上流のポリシー、規定、手順が決まっていなければソリューションの設定ができません。

ソリューション設定ができなければ、導入しても運用ができません。

また、個別最適化すると、後々ソリューション間で機能重複、二重投資、二重運用が問題となりますので脅威に対するシステム化方針と適用ソリューションの体系的検討、導入が必要です。

## 実事件を踏まえた外部攻撃対策は標的型サイバー攻撃、WEBサーバ改ざん/不正アクセス

実事件における外部攻撃事件を振り返ると、標的型サイバー攻撃、WEBサーバに対する改ざん/不正アクセスが上位を占めています。

一方、JAPIA会員企業の認識では、対策は必要だけど、小規模企業は攻撃を受けておらず、必ずしも対策は必要ではないとの認識もあり、攻撃被害状況と企業規模の投資予算に応じた対策が望まれます。

経緯/対策	JAPIA企業認識	課題	対策方針
攻撃経験	4割弱経験あり	企業規模と比例して攻撃経験増加	攻撃による損失リスク評価額に応じた対策実施
攻撃対策	攻撃経験有無に関係なく対策の認識	企業規模によって対策要否に別れ	

本格的なDoS/DDoS対策は対策コストが高く、知名度が高く攻撃対象となりやすい企業規模大では検討が必要ですが、インターネットに接続するファイヤーウォールやルータの設定での簡易対策なら企業規模小でも可能です。それ以外の標的型メール攻撃、Webサーバ改ざん/不正アクセスは踏み台として利用されるケースが発生していることから、企業規模に関係なく、検討する必要があります。

対策	リスク	対策コスト	企業規模		
			小	中	大
DoS/DDoS攻撃対策	Webサーバ/メールサーバ機能停止による業務停止	高(2400万円~)	×	△	○
標的型メール攻撃対策	マルウェア感染による情報漏洩	低(40万円~)	○	○	○
Web/API/OSサーバ不正アクセス対策	DBサーバ/情報漏洩	中(340万円~)	○	○	○
Webサーバ改ざん対策	改ざんによる悪サイト誘導/マルウェア感染	低(41万円~)	○	○	○

## 実事件を踏まえた社外漏洩対策は重要情報所在可視化、ファイル漏洩を前提とした閲覧制御

社外漏洩は、守るべき情報資産の所在と脅威が把

握できておらず、そこに対策が実施されていないことから事件が多発しています。

特に不注意によるメール誤送信、誤操作、紛失、盗難が多発しています。

一方、JAPIA会員企業の認識では、対策は必要だけど、企業規模小は漏洩しておらず、必ずしも対策は必要ではないとの認識もあり、漏洩被害状況と企業規模の投資予算に応じた対策が望まれます。

経緯/対策	JAPIA企業認識	課題	対策方針
漏洩経緯	4割が経験あり	企業規模と比例して漏洩経験増加	攻撃による損失リスク評価額に即した対策実施
漏洩対策	漏洩経験有無に関係なく対策要の認識	企業規模によって対策要否に別れ	

JAPIA会員企業の認識と実事件には乖離がありました。

まずは、大きな乖離があった個人情報の所在可視化とWebページの公開情報の精査、脅威の洗い出しが必要です。

漏洩要因	対象	JAPIA企業認識	製造業実事件	課題	対策方針
情報種別	設計・技術情報	2割	0割	新旧CADファイル対応要	ファイルの社外閲覧制御
	個人情報	2割	8割	個人情報取扱の認識不足と対策不十分	個人情報取扱のITによる所在可視化と閲覧制御
	顧客(法人)情報	2割	0.4割	個人PCに保管した顧客(法人)情報のウイルス感染による漏洩	顧客情報取扱のITによる所在可視化と閲覧制御
漏洩原因	紛失	2割	3割	USBメモリを主とした情報の社外持出	ファイルの社外持出し制御と閲覧制御
	誤送信	2割	3割	面識の無い送信先間でのメールアドレスの公開	宛先および添付ファイルのITによる閲覧制御
	盗難	2割	1割	添付ファイルの内容確認不足	
漏洩手段	書類・伝票・帳票	2割	1割	紙による情報漏洩は追跡・制御不可	ペーパーレス
	Webページ	1割	5割	公開情報の内容確認不足	重要情報取扱のITによる可視化と閲覧制御

また、自社セキュリティポリシーが適用困難な取引先、顧客、第三者の競合他社への情報持出制御、情報閲覧制御が必要です。

日本国外に関しては、日本の道徳説、価値観が通じない国が多く、人的対策は無効であり、ITによる自動かつ強制的な対策が必要です。

漏洩要因	対象	JAPIA企業認識	製造業実事件	課題	対策方針
漏洩先	競合他社	3割	不明	社員転職による情報持出	・意図しないファイルの社外漏洩対策はIRM ・意図的ファイルの企業間共有はファイル暗号化 ・ソリューションは多言語対応
	取引先	3割	不明	取引先と関係第三者	
	顧客	2割	不明	顧客と関係第三者	
漏洩先国	日本	1割	不明		
	中国	1割	不明	暗号化適用時は当局申請要	
	タイ	1割	不明		
	インド	1割	不明		
	米国	1割	不明		

一般的にリスクへの対応は、リスクの大きさとリスクの発生確率に応じて、「リスク移転」「リスク回避」「リスク保有」「リスク最適化」の4つに分類されます。

リスク移転として、ウイルス感染による情報漏洩の可能性が高い個人PCからアクセス制御を適用したファイルサーバにファイルを移動する対策が考え

られます。

移動できないファイルは、リスク最適化として、暗号化を適用し、社外漏洩しても閲覧許可者以外が閲覧できない対策が考えられます。

紙による情報漏洩は閲覧制御、閲覧履歴追跡、複写による拡散防止が適用困難ですので、情報を電子ファイル化するペーパーレス対策が考えられます。

対策	リスク	対策コスト	企業規模		
			小	中	大
重要情報ファイル所在可視化	マルウェア感染による情報漏洩	低(8000円～)	○ (個人用PCとファイルサーバ)	○ (個人用PCとファイルサーバ)	○ (個人用PCとファイルサーバ)
ファイルの社外漏洩を前提とした閲覧制御	ゲートウェイでマルウェアは100%検知防衛できないためマルウェア感染によるファイル漏洩は可能往大	低(15000円～)	○	○	○
メール誤送信対策	不注意による宛先添付ファイル誤りによる情報漏洩	低(27万円～)	○	○	○
ペーパーレス	持出検知・防衛制御不可	低(20万円～)	○	○	○

## 今後の課題

製造業においては、IT適用領域がOA系と工場系に分かれています。

OA系は社外漏洩を防ぐことが優先されますが、工場系は生産ラインの無停止が優先されます。

目的が異なるため、対策内容と程度に差異が発生したり、手付かずで未対策領域が残されたりします。

また、昨今のIoTの普及により、脅威の範囲が爆発的に増加する可能性もあります。

こういった課題に対する対策も検討していく必要があります。

## 標的型サイバー攻撃アセスメントと重要情報所在可視化ツールのご案内

セキュリティ対策を検討・実施するためには、まず、現状可視化として、守るべき情報資産の所在と脅威の洗い出しが必要です。

その情報を基にあるべき姿を検討し、対策を行います。

ところが、現状可視化ができていないために、どこから手をつけて良いか判らないと言われるケースが多く見受けられます。

セキュリティ対策ソリューションを購入し、運用される場合は、それなりの金的投資と人的投資が必要になりますが、ソリューション購入を伴わないアセスメントを適用したり、安価な可視化ツールを購入することで現状可視化は可能です。

# 悪化する世界の治安と 日本企業の海外安全対策の実態

海外危機管理体制の構築は通常自社で行いますが、課題が多く時間的な制約もあり、なかなかうまく行かないのが現状です。安全サポート(株)は社外から企業の危機管理体制構築をサポートするという、他に類を見ないサービスを提供しています。個別コンサルティングや危機管理担当者向け講習により大企業から中堅企業まで数百社の海外危機管理体制構築をサポートしてきた経験と知見をもとに、企業の海外危機管理について6回シリーズでわかりやすく解説します。

## 世界の治安情勢

海外で様々なリスクの脅威が高まっている。テロの脅威が増大し世界に拡散しているだけでなく、窃盗・強盗・殺人などの一般犯罪や交通事故の発生率はどの国でも日本と比較にならない程高い。その他にも、デモ・暴動、さらには戦争や政変リスクも看過できない国もあり、中南米・アフリカ・東南アジアなどでは誘拐についても警戒が必要だ。

## 海外危機管理対策の必要性

現在は、これまでとは比べ物にならないほど海外のリスクは高まっている。また、最近では新しいビジネスチャンスを求めて、リスクの高い国に進出するJAPIA会員企業も多い。

このような背景の中で、企業の海外勤務者

は、言葉の問題、文化の違い、土地勘、情報網の不十分さ、助けてくれる知人や同僚が近くにいないことがあるなどのハンディキャップを抱えているため、危機に遭遇した場合に自力で問題なく対応することはなかなか難しい。

ハンディキャップを埋めて海外派遣者の安全を確保するためには、会社ぐるみの危機管理対策が必要である。危機管理対策を怠ると、被害が拡大して企業の安全配慮義務違反を問われ、マスコミの追及や社員のモラル低下にもつながりかねない。

## 実際に企業が調達している 海外危機管理サービス

企業が緊急事態発生時のために調達している海外危機管理サービスの種類は概ね以下のとおりである。

**【医療アシスタンスサービス】** 病院手配、医療費立替、医療搬送、遺体搬送など。

海外旅行保険が適用とならない場合でも手配してもらえる。

**【国外退避サービス】** 治安悪化や災害時の退避用チャーター機手配、空港までのエスコート手配など。

**【誘拐/脅迫対応サービス】** 解決支援のための専門コンサルタントの派遣など。

これらのものを自社の抱えるリスクに相応

しい組み合わせで調達する必要がある。  
しかし、実際には一部のみ導入していたり、  
実態に合っていないサービスを導入していたり、  
正しい組み合わせを選択できている企業  
は意外に少ない。

## 社内体制の構築

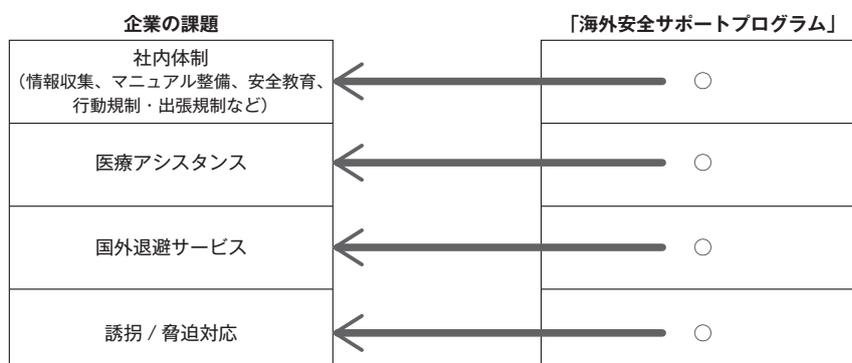
さらに言えば、緊急事態発生時の危機管理

サービスを業者から調達しているだけではま  
だ不十分である。

このままでは緊急事態が起こることは成り  
行きに任せていることになる。企業としては  
緊急事態が起こらないような予防や、起こっ  
た際に社員や会社が適切な行動が取れるよう  
な対策を平時から準備していないと責任ある  
企業とはいえない。国内の生産現場では当た  
り前に行われていることである。

### 安全サポート(株)の「海外安全サポートプログラム」の特長

安全サポート(株)が提供している「海外安全サポートプログラム」は、[医療アシスタンスサービス]、[国外退避サービス]、[誘拐/脅迫対応サービス]など危機対応サービスを全て網羅しているだけでなく、社内体制構築サポートや平時の社内業務支援などのコンサルティング業務まで含まれている。さらに危機発生時には社内対応のサポートも行う。このように企業の社内対応に関する各種課題を安全サポート(株)が代わって行うため、調達した日から万全な海外危機管理が実現する。(下記イメージのとおり)



### 【ご参考】JAPIA会員企業向け 無料「海外安全・健康管理サービス」

※部工委会員企業向けサービス「海外安全・健康管理サービス」は、安全サポート(株)が部工会から委託を受け、運営しています。

1. JAPIA安全サポート情報のメール配信  
海外の治安、感染症などの情報を平日毎日メール配信
2. 海外で安心して使える病院情報の提供 (アジア7か国)  
日本人が使いやすい病院情報をJAPIA会員専用サイトから検索
3. 海外赴任者・出張者講習への参加  
東京で毎月1回開催。JAPIA安全サポート情報配信先に案内します。

〈サービス運営会社〉安全サポート株式会社

〈ご利用方法〉部工会HPから登録ください。 <http://www.japia.or.jp>

# 第15回技術展示商談会 アンケート調査

UDトラックス株式会社様

## 一般社団法人日本自動車部品工業会

日本自動車部品工業会 中小企業施策委員会は、3月2日（水）、埼玉県上尾市にあるUDトラックス株式会社様のご協力のもと、同社の本社・上尾工場内の施設「Auditorium」をお借りして部工会会員企業21社による第15回技術展示商談会を開催した。（出展企業以下参照）

当日は、UDトラックス様関係者並びに同社と取引のある自動車部品メーカーの方々232人のご来場をいただいた。会場では来場者を対象にアンケート調査を行い、回答者のうち51%が「新規に取引を検討したいと思った」とするなど、ビジネス拡大の場として有用な役割を果たしていることがわかった。

アンケート結果によると、来場者のうち自動車メーカーの方々が77.2%、部品メー

カーの方々が11.1%を占めた。（図1）全体を職種別でみると技術・開発・商品企画が50.3%と半数を占めた。調達・購買が17.0%、営業・販売12.3%だったほか、生産技術、総務・経理、生産・製造の方々と幅広い職種の方々が来場している。（図2）

会場での商談内容については、「新規に取引を検討したいと思った出展者があった」との回答が51.5%と、半数以上を占めた。「どちらともいえない」は10.5%だったが、「なかった」は36.3%にとどまっており、あらたな取引の機会がより多く生まれているといえそうだ。（図3）

当商談会全般に関するご意見・ご要望等については「サプライヤーの動向を知るとしても良い機会だと思う。今まで取引のない会社に対し、技術説明してもらえて知識が

図1. 業種について

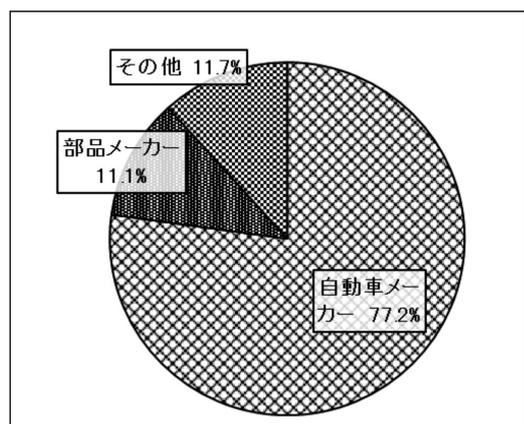
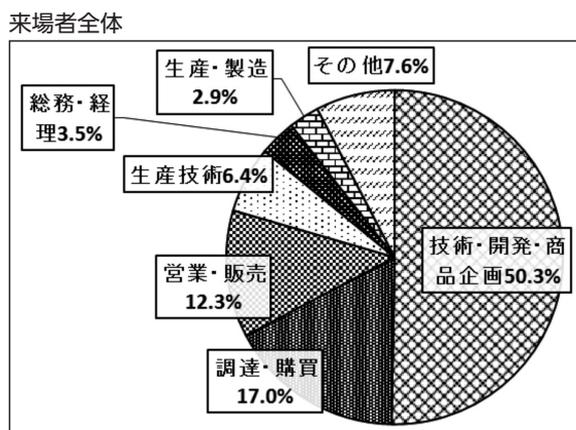


図2. 職種について



## オープニング

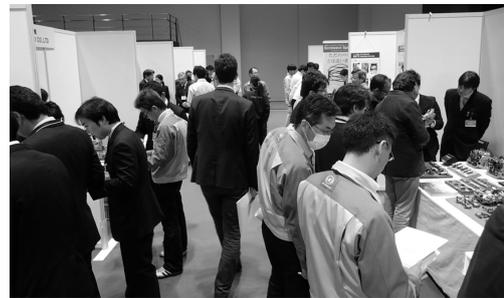


部工会 玉村会長

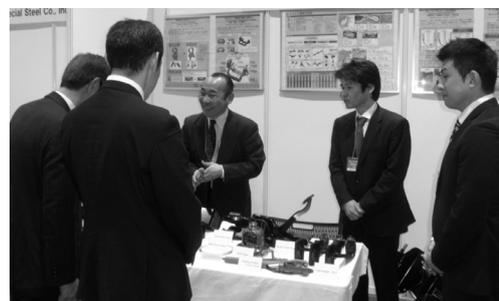


部工会  
石川中小企業施策委員長

## 商談会場



会場通路



各ブースでは熱心な説明が行われた

増えた。技術、新商品など興味深かった。他メーカーでもこのような合同展示会を実施しているので、是非継続をお願いしたい」と、評価の声を頂いた。

出展者に対するアンケートでは、出展に対し「満足」との回答は42.9%を占めた。「普通」は33.3%と、双方を合わせると76.2%

に達した。(図4)「展示会出展の目的は、大手企業の技術者に弊社製品を説明する事。すぐに引合いにならないが設計される際に、当社の製品があることを思い出してもらえれば、引合いにつながると考えている」といった声が聞かれた。

図3. 新規に取引を検討したいと思った出展者について

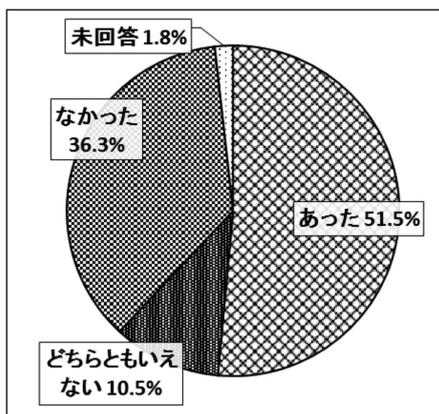
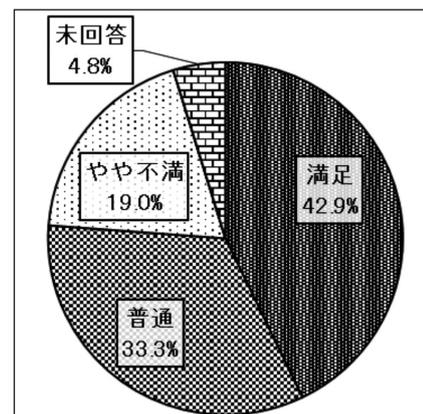


図4. 商談会に出展した感想について



# 第15回技術展示商談会 出展会社



## 中川特殊鋼(株)

Nakagawa Special Steel Co., Inc.

- アルミ鍛造部品
- 精密鍛造部品



## 石川ガスケット(株)

ISHIKAWA GASKET CO., LTD.

- ヘッドガスケット
- ヒートインシュレーションなど



## ヒルタ工業(株)

HIRUTA KOGYO CO., LTD.

- ブレーキペダル
- パーキングブレーキレバーなど



## (株)オティックス

OTICS Corporation.

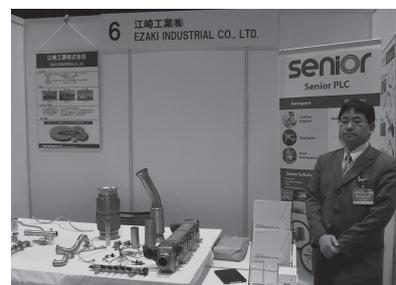
- ロックシャフトアッセンブリ
- コモンレールなど



## 協栄プリント技研(株)

KYOEI PRINT GIKEN CO.,LTD

- 切削加工部品



## 江崎工業(株)

EZAKI INDUSTRIAL CO., LTD.

- オイル ドレインパイプ
- オイル パイプなど



## 三和ニードルベアリング(株)

TNK SANWA PRECISION CO.,LTD.

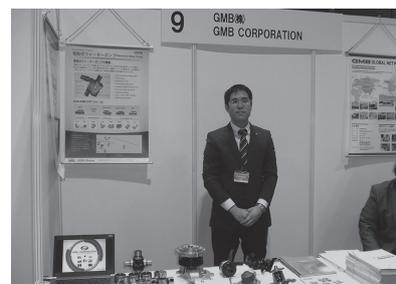
- 非磁性・高硬度シャフト
- 高精度シャフトなど



## 松村鋼機(株)

MATSUMURA KOHKI CO., LTD.

- スパイラルリテーニングリング
- ハイブリッドスプリングなど



## GMB(株)

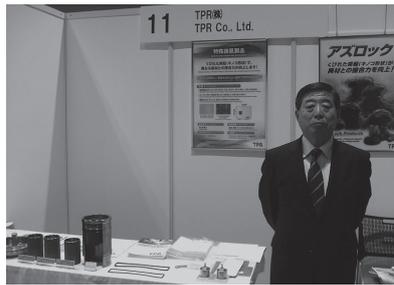
GMB CORPORATION

- ユニバーサル・ジョイント
- ウォーターポンプなど



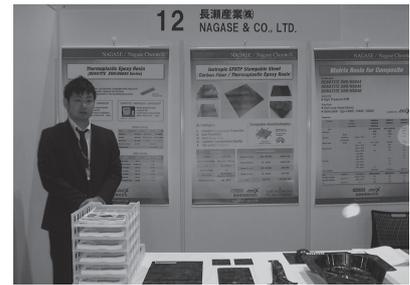
**サンライズ工業(株)**  
Sunrise Industry co.,Ltd.

- パワーステアリングパイプ
- ウォーターインレットパイプなど



**TPR(株)**  
TPR Co., Ltd.

- オイルシール
- 自動車用シールなど



**長瀬産業(株)**  
NAGASE & CO., LTD.

- CFRTPスタンパブルシート
- CFRTPプレス成型品



**(株)荒井製作所**  
ARAI SEISAKUSHO CO., LTD.

- バルブシステムシール
- インターカムニホールドなど



**エス・オー・シー(株)**  
SOC Corporation

- Fuses DC750V 500A
- Fuses 36CFAなど



**ミック電子工業(株)**  
Mik Denshi Kohogyo Co., Ltd.

- ラバースイッチ
- 2回路2接点 防沫スイッチなど



**山口電機工業(株)**  
Yamaguchi Electric Ind. Co., Ltd

- タイプ別アラーム試聴用デモ機
- SA アラームなど



**(株)ミクニ**  
MIKUNI CORPORATION

- アクセルペダルモジュール
- 電動バキュームポンプなど



**(株)樋屋**  
TSUCHIYA CO., LTD.

- ハイボスカル
- 加飾反射ストライプなど



**日本濾過器(株)**  
Nippon Rokaki Co.,Ltd.

- 金属フィルター long
- フィルターハウジングなど



**三輪精機(株)**  
SANWA SEIKI LTD.

- トラック用バイパスバルブ
- 2ステータージェネ用バイパスバルブなど



**光精工(株)**  
HIKARI SEIKO CO., LTD.

- ユニバーサルジョイント
- トランスミッションパーツなど

# 消費の回復が足踏みしている背景

2012年まで日本経済に蔓延していた閉塞感  
はアベノミクスを契機に和らぎ、消費者マイン  
ドの改善とともに消費は持ち直した。しかし、14年4月の消費税率引き上げ後に消費は深く落ち込み、7四半期経過した10～12月期時点でも勢いが戻らず、アベノミクス前の水準を下回っている。この消費不振の背景には、天候不順や金融市場の混乱などの短期的要因のほか、構造的要因が存在する。

まず、短期的要因の消費への影響について考える。図表1は、実質消費の伸びを雇業者報酬（マクロでみた賃金の総額）と消費性向（所得を消費にどれだけ回したかを表す割合）に分解したものである。15年に入り雇業者報酬は雇用拡大やベースアップにより小幅ながら増加しているが、消費性向については、短期的要因が頻発したことを受けて低下しており、これが消費を押し下げていること

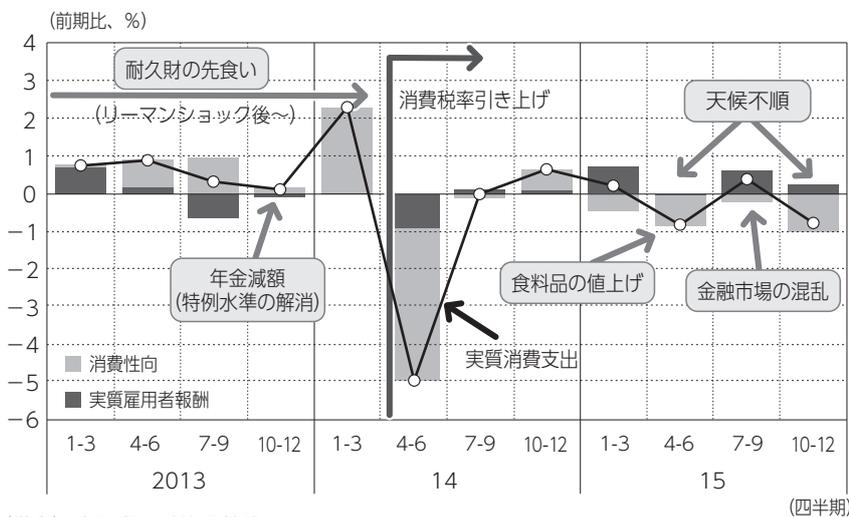
がわかる。

短期的要因のひとつが、08～14年にかけて生じた、耐久財需要の先食いである。2011年の地上デジタル放送への移行前や、リーマンショック後の家電やエコカーの購入支援策導入時、14年4月の消費税率引き上げ前に需要の先食いが生じたため、耐久財消費には足元でも下押し圧力が残っており、弱い動きが続いている。次に、2013年10月以降には、高齢者が消費を抑制した可能性がある。2000～12年のデフレの時期に、年金は減額を実施せず本来よりも高い水準（特例水準）で支払われたため、13年10月以降、この特例解消のために年金支給額が減額された。これを機に年金所得者のマインドは悪化し、現在も給与所得者に比べて弱い動きとなっており、高齢者の消費抑制へとつながったと考えられる。また、15年4月以降には、食料品の値上げ

が相次いだことが消費者マインドを冷やしたと考えられる。消費者庁のアンケート調査によれば、このタイミングで、「今後3ヵ月間の支出を減らす」と回答した消費者の割合が増加しており、生活防衛意識の高まりが、消費を抑制した可能性がある。

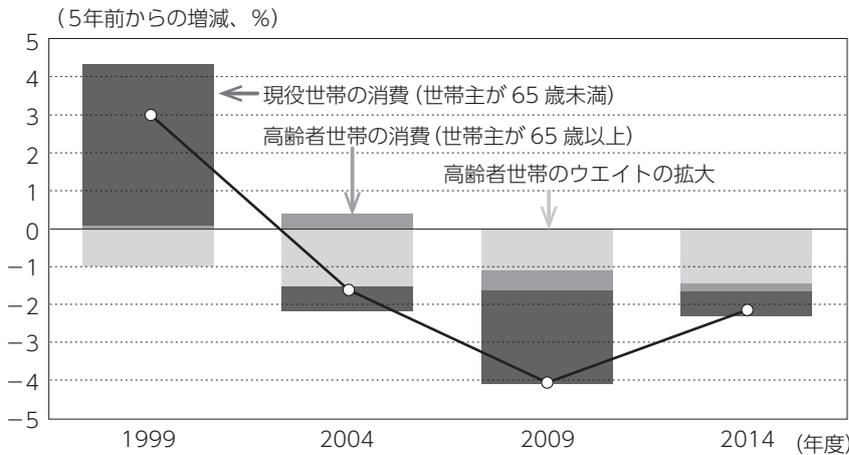
近年の消費低迷はこれらの短期的要因が重なったた

（図表1）実質消費の要因分解



（備考）内閣府、季節調整値

(図表2) 1世帯当たりの名目消費支出の寄与度分解



(備考) 総務省「全国消費実態調査」、総世帯、世帯人員数調整済(14年度の世帯人員数で固定)消費支出は名目値であり、04～14年度はデフレ下で増減がマイナスとなっている

めとみられるが、高齢化や人口減少、現役世帯の所得の伸び悩みなどの構造的要因が、消費に長期的な下押し圧力をかけ続けている。

まず、日本の人口は08年、労働力人口は97年をピークに減少しており、これらによる消費下押し効果は、年平均でみれば小幅であるものの、出生率の上昇や移民流入、あるいは、労働参加率の飛躍的な上昇がない限り、今後も継続的に下押し圧力を加える。

次に、高齢化の影響を1世帯あたりの消費支出から考える。図表2の世帯当たりの消費金額は、デフレの影響もあり、2000年以降減少しているが、その要因のうち、高齢者世帯のウエイト拡大は一貫して消費を下押ししている。これは、世帯主年齢が65歳以上の高齢者世帯の消費支出が、65歳未満の世帯(現役世帯)の消費支出の約8割にとどまることが原因である。しかしながら、同じグラフからは、高齢者世帯、現役世帯それぞれの消費支出がともに近年減少しており、かつ、現役世帯のマイナス寄与がより大きいことがわかる。

現役世帯の消費不振の構造的要因には、所

得の伸び悩みがある。一人あたりの所得は、ベースアップにより増加したが、その伸びは弱く、加えて、税や社会保障の負担拡大で、手取り収入の伸びはさらに抑えられており、長年染みついた生活防衛の意識から抜け出せない。雇用者の中でも特に、パート労働者の多くは所得も低く、将来に不安を抱えて消費を抑

制せざるを得ないとみられる。

足元では、失業率は3%台前半に低下するなど、労働市場がタイト化し、一般労働者(フルタイム)の雇用が増加し始めたほか、パート労働者の賃金も増加しており、現役世帯の雇用・所得環境に改善がみられる。16年度の日本経済は、海外経済の持ち直しが弱い中で、雇用・所得環境の改善を背景に、消費を中心に持ち直すことが期待されている。しかし、今年の春闘では、賃上げの流れに勢いがみられず、昨年を上回る所得改善は期待し難くなってきた。消費は、引き続き構造的な下押し圧力に晒されており、短期的な外的ショックが加わると、昨年と同様に水面下へ沈んでしまうような千鳥足の持ち直しが予想される。

参考文献:

日本政策投資銀行 (2016) DBJ Monthly Overview, April 2016  
 日本銀行 (2015) 「わが国の経済・物価情勢と金融政策 青森県金融経済懇談会における挨拶要旨」日本銀行政策委員会審議委員 木内 登英 September 3, 2015 ([http://www.boj.or.jp/announcements/press/koen\\_2015/ko150903a.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/press/koen_2015/ko150903a.htm/))  
 消費者庁 「物価モニター調査」

# 工業会業務レポート

## 委員会活動

### 総務部

#### ●業務報告 [2/16～4/15]

3月17日 正副会長等打合せ会、理事会 平成28年度事業計画、予算等の審議 経団連会館

#### ●行事予定 [5/16～7/15]

5月25日 通常総会、臨時理事会 平成27年度事業報告、決算、平成28年度事業計画、予算、理事・監事改選の審議 経団連会館

### 業務部

#### ●業務報告 [2/16～4/15]

2月18日 自動車産業適正取引ガイドライン・下請法セミナー 「自動車産業適正取引ガイドライン・下請法」に関するセミナーを愛知県名古屋市で開催した。 テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省 製造産業局 自動車課 課長補佐 太田保光様 テーマ：下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士岡田英夫様 名古屋桑山ビル

2月19日 自動車産業適正取引ガイドライン・下請法セミナー 「自動車産業適正取引ガイドライン・下請法」に関するセミナーを静岡県浜松市で開催した。 テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省 製造産業局 自動車課 課長補佐 太田保光様 テーマ：下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士岡田英夫様 浜松アクトタワー

2月23日 自動車産業適正取引ガイドライン・下請法セミナー 「自動車産業適正取引ガイドライン・下請法」に関するセミナーを大阪府大阪市で開催した。 テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省 製造産業局 自動車課 課長補佐 太田保光様 テーマ：下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士岡田英夫様 大阪商工会議所

2月24日 自動車産業適正取引ガイドライン・下請法セミナー 「自動車産業適正取引ガイドライン・下請法」に関するセミナーを広島県広島市で開催した。 テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省 製造産業局 自動車課 課長補佐 太田保光様 テーマ：下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士岡田英夫様 広島県情報プラザ

2月25日 経営調査部会 ・2015年度第3四半期の自動車部品工業の経営動向（案）について検討を行った。 部品会館

2月26日 総務委員会運営幹事会 ・3月11日の総務委員会の運営について検討を行った。 デンソー東京支社

2月29日 海外子会社人材活用円滑化WG ・海外子会社人材の受入に関する課題、今後のWGの進め方について検討を行った。 部品会館

3月2日 技術展示商談会 会員企業21社による第15回技術展示商談会を開催した。 来場者は232名。 UDトラックス(株) 本社・上尾工場

3月11日 総務委員会 ・平成28年度の活動計画（案）について検討を行った。また、平成27年度第3四半期の自動車部品工業の経営動向の取りまとめ、関係WGの活動状況について報告を行った。 部品会館

3月17日 中小企業施策委員会 ・第15回技術展示商談会の開催結果と仮想展示会の準備状況について報告を行った。平成27年度の中小企業施策委員会の活動

結果と28年度活動計画（案）について検討を行った。 経団連会館

3月23日 品質不具合対応WG ・不具合未然防止のための部品メーカーとしての基本的な考え方の取りまとめを行い、会員企業を対象とした説明会を行った。また、企業の品質問題への対応に関する講演会を開催した。 テーマ：社会の要請に応える企業文化を育む 品質管理部門への提言—製品事故を不祥事にしないために— 講師：偏西風事務所 久新大四郎様 部品会館

4月5日 海外子会社人材活用円滑化WG ・海外子会社人材の受入に関する課題等について整理を行うとともに、今後の活動について意見交換を行った。 日本特殊陶業市民会館

4月8日 人財・労務部会 ・特許法の改正（職務発明制度の見直し）への対応について検討を行った。また、1/25政策委員会と自動車総連との懇談会の結果、関連WGの活動状況等について報告を行った。 部品会館

#### ●行事予定 [5/16～7/15]

5月17日 海外子会社人材活用円滑化WG ・海外子会社人材の受入に関する課題等について整理を行う。 エクセディ

5月24日 経営調査部会 ・2015年度の自動車部品工業の経営動向（案）について検討を行う。 部品会館

5月27日 総務委員会運営幹事会 ・6月10日の総務委員会の運営について検討を行う。 部品会館

6月10日 総務委員会 ・2015年度の自動車部品工業の経営動向（案）について検討を行う。 部品会館

### 国際部

#### ●業務報告 [2/16～4/15]

2月18日 FTA・通商部会 1. 最近の動向 2. 本年度事業の進捗について 3. WG活動以外の事業について 4. 海外事業概況調査報告 5. 来年度事業に関し 6. 原産地規則懇話会報告 部品会館

2月24日 知的財産権部会 1. 知財関連事項の説明 2. 対UAE模倣品対策ミッション結果報告 3. 来年度事業に関し 4. 知財活動の紹介 本田技研工業(株) 知的財産部 部長 別所弘和氏 部品会館

3月6日～8日 AMEICC人材育成ラウンドテーブル 1. 基調講演 2. アセアン諸各国の講演等 3. 他

3月8日 国際委員会 1. 最近の情勢 2. 本年度事業の総括と本年度事業のポイント 3. 本年度事業の進捗 1) 海外事業の展開・安定化への支援 2) 自動車市場動向調査 3) 知的財産権保護の強化 4. アジア人材育成への取り組みについて 部品会館

#### ●行事予定 [5/16～7/15]

5月27日 知的財産権部会 1. 知財関連事項の説明 2. WGの活動進捗について 3. 本年度事業に関して 4. 他 部品会館

7月6日 国際委員会 1. 最近の情勢 2. 本年度事業の進捗 3. 他 部品会館

### 関東支部

#### ●業務報告 [2/16～4/15]

2月16日 経営委員会工場見学会 ①エクセディ生産再構築支援システム（内製）のご紹介 ②ダイバーシティの取り組み (株)エクセディ 本社工場

2月18日～19日 会員会社情報交流会 ①施設見学会 ②懇親会 ③懇親ゴルフ会 アマダ・ソリューションセン

- ター「FORUM246」/平塚富士見CC
- 2月23日 第4回企画部会 ①平成27年度関東支部事業評価について ②平成28年度事業計画(案)の検討について アルパイン(株)いわき本社
- 2月26日 リサイクル研究会講演会・工場見学会 ①講演会「処理業者の現地確認(監査)の実務」(株)リーテム 法務部 部長補 兼 環境リスクチーフコンサルタント 坂本裕尚様 ②工場見学会「模擬監査体験」(株)リーテム 東京工場
- 3月23日 第4回運営委員会 ①平成27年度関東支部事業報告(仮)及び収支決算(仮)について ②平成28年度関東支部事業計画(案)及び収支予算(案)について ③役員改選に伴う候補選考について ④平成28年度関東支部通常年次会の開催について 八芳園
- 3月23日 役員選考会 ①関東支部運営委員会候補の選考について ②関東支部から本部総会に推薦する本部理事・監事候補者の選考について ③支部長候補者の選考について 八芳園
- 3月29日 経営研究会幹事会 ①平成27年度経営研究会事業の振り返り ②平成28年度経営研究会事業計画の検討 部品会館

#### ●行事予定 (5/16～7/15)

- 5月25日 第1回運営委員会 ①平成27年度関東支部事業報告(案)及び収支決算(案)について(3月の運営委員会以降に実施した事業報告及び確定した収支決算について) ②役員改選に伴う支部運営委員会社の選任及び本部総会に推薦する本部理事・監事候補者の選任について(3月の運営委員会以降に変更があった場合) 経団連会館
- 5月25日 通常年次会 ①平成27年度事業報告(案)及び収支決算(案)の承認について ②平成28年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について ③役員改選に伴う支部運営委員会社の選任及び本部総会に推薦する本部理事・監事候補者の選任について ④支部長の選任について 議案外:優良従業員表彰 経団連会館
- 6月頃 第1回企画部会

### 中部支部

#### ●業務報告 (2/16～4/15)

- 2月18日 講演会(中小企業部会)「2025年の電動パワートレイン市場」野村総合研究所 グローバル製造業コンサルティング部 風間智英氏 名古屋栄ビル
- 2月24～25日 ISO14001:2008 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 2月24～25日 AIAG, コアツール実践2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 3月1～3日 中小企業大学校瀬戸校研修会 「自ら成長する部下の指導・育成法」 中小企業大学校瀬戸校
- 3月9日 優良施設見学会(環境部会) (株)小松製作所 粟津工場 石川県小松市
- 3月16～17日 ISO14001:2008 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 3月22～23日 ISO9001:2008 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 3月24～25日 ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 3月25日 正副支部長打合せ会 平成28年度支部事業計画・

- 支部役員人事 名古屋市内
- 4月12日 支部業務監査 H27年度業務報告・H28年度事業概要 会計監査事前チェック 他 中部支部事務所
- 4月14日 支部会計監査 平成27年度支部決算会計監査 東郷製作所・住友理工 各社

#### ●行事予定 (5/16～7/15)

- 5月19日 平成28年度通常年次会 ・平成27年度事業報告および決算承認 ・平成28年度事業計画および予算承認 ・中部支部全役員任期満了に伴う改選 ウェスティンナゴヤキャッスル
- 6月10日 活動計画検討会(中小企業部会) 2016年度活動計画の検討と策定 名古屋栄ビル
- 6月17日 活動計画検討会(環境部会) 2016年度活動計画の検討と策定 中日ビル

### 関西支部

#### ●業務報告 (2/16～4/15)

- 3月4日 第4回正副支部長会 第3回運営委員会 情報交換会 講演会 懇親会 「最近の国内補修部品市場・ビジネスの動きと今後の展望等について」(株)ジェイシーレゾナンス 代表取締役社長 松永博司氏 ホテルグランヴィア岡山

#### ●行事予定 (5/16～7/15)

- 5月24日 品質分科会・技術分科会共催 勉強会・工場見学会「海外での人材確保と品質維持」 ヤマハ発動機(株)
- 5月27日 補修部部分科会 委員会 貴船 喜らく
- 6月3日 総務分科会 講演会「経営者と幸福感」京都大学 こころの未来研究センター 准教授 内田由紀子氏 清風荘
- 6月8日 生産分科会 委員会・工場見学会 ヒルタ工業(株) (予定)
- 6月10日 経営研修会 勉強会・情報交換会「“国土のグランドデザイン2050”を踏まえた国土形成・全国計画」国土交通省 国土政策局 総合計画課長 白石秀俊氏 吉田山荘
- 6月28日 技術分科会 異業種見学会 川崎重工業(株)
- 7月6日 生産分科会・技術分科会共催 異業種見学会 DMG森精機(株)

## 技術関係委員会等の開催状況 (2/16~4/15)

### 1. 総合技術委員会

日時	会議名	開催場所	概要
2月16日	国際標準化検討幹事会	自動車部品会館	1) ルネサスとの意見交換
2月22日	国際標準化検討幹事会	自動車部品会館	1) 東芝との意見交換
4月5日	国際標準化検討幹事会	自動車部品会館	1) 自工会の状況報告 2) 今後の対応について 3) JEITAとの協力について
4月7日	ITS部会幹事会	自動車部品会館	1) 平成28年度の活動について 2) 関係団体との対応について

### 2. 基準認証部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月25日 ~3月5日	基準認証部会 ASEANミッション	ベトナム、タイ、 インドネシア	1) VAMA打合せ 2) DLT、TISI打合せ 3) TAIA、TAPMA打合せ 4) GIAMM、GAIKINDO打合せ 5) DGLT、MOI打合せ
3月14日	基準認証部会 ASEAN WG	自動車部品会館	1) ミッション報告書まとめ
3月16日 ~3月22日	基準認証部会 中国ミッション	中国	1) SAC/NTCAS/SC21-JAMA技術交流会 2) SC21交流会結果まとめ及びCNCA/CQC交流会事前準備 3) CNCA/CQC-JAMA技術交流会
3月30日	QRTV-WG	自動車部品会館	1) 第63回GRB結果報告について 2) JASIC QRTV採用WGについて 3) 次年度の活動内容について
3月31日	基準認証部会	自動車部品会館	1) インドWG 活動状況 2) 中国WG 活動状況 3) ASEAN-WG 活動状況 4) 台湾WG 活動状況 5) 2015年度活動まとめ 6) JASIC情報
4月13日	基準認証部会	自動車部品会館	1) 基準認証部会活動計画案の検討 2) 各WG活動状況 3) JASIC情報

### 3. IT対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月25日	DE促進部会幹事会	自動車部品会館	1) 合同幹事会、並びに総合技術委員会報告について 2) DE促進部会の次年度活動について 3) 平成28年度異業種交流会アンケートについて 4) JAMA DE部会WG知りたいアンケートの集計結果について
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
2月26日	DE促進部会 (シーメンス様との実機検証会)	シーメンス	1) JTの特徴と活用事例について 2) 後工程での3Dデータの活用について 3) NX CAD最新情報について
3月2日	3D-CAD新技術調査WG	安保ホール (名古屋)	1) セキュリティー講演会について
3月14日	3D-CAD新技術調査WG	自動車部品会館	1) セキュリティー講演会について
3月24日	DE促進部会幹事会	自動車部品会館	1) IT対応委員会(4/12)の対応について 2) DE促進部会の次年度活動について
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 講演(自工会DE部会LTAR-WGの活動について) 2) 全体報告について 3) WG報告について 4) 幹事会報告について 5) その他(困り事相談、情報交換等) 6) WG活動
3月25日	DE促進部会 (ダッソー・システムズ様との実機検証会)	㈱アルゴグラフィックス	1) CATIA/EMOVIAのシンクライアント実機検証について 2) DSLD管理機能紹介(実機検証)について 3) パージョン、リリース間の上位、下位互換について(データ及びアプリケーション)
4月5日	IT対応委員会幹事会	自動車部品会館	1) 平成27年度の活動実績報告について
	EDI部会	自動車部品会館	1) 平成27年度の活動実績報告について
4月12日	IT対応委員会	自動車部品会館	1) JNXセンター報告について 2) 平成27年度幹事会の活動報告について 3) 平成27年度DE促進部会の活動報告について 4) 平成27年度EDI部会の活動報告について

#### 4. 環境対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月18日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各種渉外について 2) JAMAシートver2.33改正について 3) 国際イベントプレゼン資料作成について
2月19日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 東南アジア出張報告 2) 自工会・製品化学物質管理部会・報告 3) 製品環境部会・各分科会報告 4) 部工会主催・国際コンファレンスの件
2月22日	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 環境法規制対応ガイダンス、及び補足資料集の改訂版について 2) グローバルでの廃棄物、水資源の把握と削減活動について 3) 海外の法規情報発信について 4) 平成28年度の取り組みについて
2月23日	LCA分科会	自動車部品会館	1) 来年度活動内容検討 2) 各WG進捗状況 3) 環境対応委員会LCA事例紹介内容検討
2月25日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 東南アジア出張報告 2) 自工会・製品化学物質管理部会・報告 3) 製品環境部会・各分科会報告 4) 部工会主催・国際コンファレンスの件
2月29日	化学物質規制対応分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 物質精査活動 3) アンケートへの回答 4) 州出張報告(REACH TF 16/2/10)
3月1日	化学物質規制対応分科会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 規制物質の精査活動 3) アンケートへの回答 4) JAPIA国際会議について
3月3日	省エネ事例展開TF	自動車部品会館	1) 省エネ講演及び事例説明会の事前打合せ 2) 平成28年度活動計画について
3月14日	温暖化防止分科会	自動車部品会館	1) 分科会全体日程 2) CO <sub>2</sub> 削減シナリオTF 3) 事例・情報展開TF
	省エネ説明会	日比谷図書文化館	1) H27年度温暖化防止推進分科会の活動報告 2) JAPIA中部支部 省エネルギー優秀事例の紹介 3) 講演会「ISO14001改正の動向」
3月18日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 分科会全体日程 2) CO <sub>2</sub> 削減シナリオTF 3) 事例・情報展開TF
	国際イベント準備委員会	自動車部品会館	1) 全体スケジュールの確認 2) パンフレットの内容確認 3) 開催案内送付および集金方法確認 4) その他相談事項
3月22日	環境対応委員会幹事会	刈谷市中央渉外 学習センター	1) 各部会・分科会 他の年度活動計画状況及び次年度活動の方向性報告 2) 総合技術委員会及び理事会での報告
3月24日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 自工会・部会・各分科会報告 2) 製品環境部会・各分科会報告 3) 部工会・国際イベント準備委員会報告
3月30日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 自工会・部会・各分科会報告 2) 製品環境部会・各分科会報告 3) 部工会・国際イベント準備委員会報告
4月13日	化学物質規制対応分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 物質精査活動 3) 自工会情報 4) 欧州情報
4月15日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 午後の全体会の進め方 2) JAMAシートver2.33改正対応
	物質調査システム分科会	自動車部品会館	1) IMDSリリース11計画紹介 2) JAMAシート2016年度改正計画説明 3) 2015年GADSL改正内容解説(1月からの変更点)

#### 5. 品目別部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
2月23日	警音器部会	自動車部品会館	1) 第63回GRB R28について報告および今後の実施事項共有について
2月26日	車輪技術部会及び タイヤ・リム合同会議	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2017年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
3月1日	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1) 第3回ライニング分科会情報共有 2) 来期ISO1584改定について 3) 来期計画について 4) 2016EuroBrakeについて 5) その他 北米からの情報共有
3月2日	警音器部会	自動車部品会館	1) R28ロシア提案に対する修正案作成について
3月10日	レストレイント部会 PR-WG	自動車部品会館	1) チャイルドシートアセスメント選定機種に関するNASVAへの申し入れについて 2) 未認定製品に対する対応について
	オイルフィルタJIS原案 作成本委員会	自動車部品会館	1) JIS原案(本文、解説)の審議
3月11日	シート部会	京都	1) 川島織物セルコン見学

3月11日	濾器技術部会及び工場見学会(マツダ)	広島	1) 自工会・製品化学物質管理部会報告 2) 物質調査システム分科会報告 3) 部工会・総合技術委員会報告内容
3月15日	シートベルト分科会	自動車部品会館	1) 法規変更にかからむ後席マネキン搭載方法WGの結果について 2) TASSでスレッド装置の衝突波形発生装置を変更しようとしている件 3) 2/2マレーシア運輸省・交通研審査部によるオートリブ視察・立ち会い試験報告 4) その他(シートベルト認可に絡む内容) 5) 審査部との「TRIASにおけるUTACマネキンの取り扱い」に関する意見交換
	警音器部会	自動車部品会館	1) R28ロシア提案に対する修正案作成について
3月17日	オイルシール技術部会	自動車部品会館	1) JIS-ISO整合化作業について 2) ISO審議状況等 3) 平成28年度活動計画案
3月18日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認 2) 第68回ISO国際会議アクションアイテム対応審議
3月23日	警音器部会講演会	自動車部品会館	1) 「ISO26101音響-自由音場環境の評価のための試験方法の概要」についての講演会
3月24日	レストレイント部会幹事会	自動車部品会館	1) 平成27年度部会・分科会活動報告 2) 部会・分科会役員 部会派遣委員等について 3) PR活動について 4) 国内外法規動向について
3月28日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) GRSP会議報告 2) アセスメントCRSWG報告 3) 来年度分科会長・派遣委員について
3月30日	ランプ部会	自動車部品会館	1) GTB-WG会議(2/22-25@フランス)の結果報告 2) 解説書の見直し 3) 中国/GB規格の厳格化対応 4) 台湾VSCCのCOP監査実施 5) E43(自動車審査部)認証受験費用の改定 6) 国内基準改正動向(DRL解禁、HL自動点灯義務付) 7) 平成27年度ランプ部会活動実績報告 8) 平成28年度ランプ部会活動計画(案)
4月5日	レストレイント部会NCAP-WG	自動車部品会館	1) アセスメント検討会報告 2) 今年度の活動について
4月7日	オイルフィルタJIS原案作成小委員会	自動車部品会館	1) JIS D1611-3原案(本文、解説)の審議
4月8日	シート部会	自動車部品会館	1) 平成28年度部会活動計画案・予算案 2) 第19回シート技術研究発表会開催計画 3) 部会合同会議について
4月15日	電線部会	自動車部品会館	1) 第68回ISO国際会議対応について 2) JASO D 609(低圧電線の電流量)一次案改正審議について
	クッション性分科会	自動車部品会館	1) 平成28年度活動計画案の検討 2) シート技術研究発表会テーマ案出し

### ●行事予定 (5/16～7/15)

月 日	会合名称など	概 要	場 所
5月16日	環境保全分科会説明会		名古屋市工業研究所
5月18日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
//	ランプ部会		日比谷図書文化館
//	GTB対応会議		日比谷図書文化館
5月19日	摩擦材技術部会		曙ブレーキ工業(日本橋)
5月20日	物質調査システム分科会全体会幹事会		自動車部品会館
5月23日	国際イベント準備委員会		自動車部品会館
5月25日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
//	警音器部会		自動車部品会館
5月27日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	車輪技術部会及びタイヤ・リム合同会議		自動車部品会館
//	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
6月1日	部工会・製品化学物質管理に関する国際会議		東京国際交流館
6月9日	総合技術委員会		自動車部品会館
//	濾器技術部会		自動車部品会館
6月10日	オイルシール技術部会		自動車部品会館
//	ランプ部会		自動車部品会館
//	GTB対応会議		自動車部品会館
6月16日	電線部会		自動車部品会館
6月17日	物質調査システム分科会全体会幹事会		自動車部品会館
//	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館
6月23日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
6月24日	製品環境部会		自動車部品会館
//	DE促進部会幹事会		デンソー(刈谷)
//	DE促進部会		デンソー(刈谷)
//	車輪技術部会		自動車部品会館

# Y世代とZ世代

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

2ミレニアル世代あるいはY世代と呼ばれる年代層があります。1945年～1959年生まれのベビーブーマー、1960年～1974年生まれのX世代に続く年代層で、1975年～1999年生まれの人々です。この世代は現在初めてクルマに乗り、所有するティーンエージャーから自分で好きなクルマを買ったり買い替えたりできる年代まで含み、これからの人生で数台のクルマを乗り継いでくれる自動車業界にとってはとても大切なお客様です。ところがこのY世代についていわゆる「クルマ離れ」の傾向が語られることが多いのです。スマートフォンやSNSその他彼らの興味をクルマから奪うものが多いことや、また親の世代と比べて所得が少なくなっている、つまり親より貧しい世代になってしまっていることなどが原因とされていますが、自動車メーカーにとっての頭痛のタネのひとつです。

ところが最近、米国のオンライン自動車販売会社と自動車売買価格調査会社が、上述のY世代に続くZ世代に向けて実施したアンケート調査で興味深い結果を発表しました。Z世代とはすなわち現在0～16才の子供たちで、まだクルマの運転免許を持っていない、将来のドライバーたちであるわけですが、この子たちはY世代よりクルマを所有したいという気持ちが強いのだそうです。そして彼らはY世代やそれより上の人々のようにクルマ

の所有を社会的成功のシンボルと捉えてBMW、ポルシェ、メルセデスベンツなどに憧れるのではなく、クルマを所有し運転して移動する「経験」を求めている、クルマに対する最優先事項はこの「経験」として「安全性」だといいます。さらに、自分たちの両親が経済的に苦しむ姿を見て育っている彼らはY世代以上の購買層よりずっと価格に敏感だというのですが、それでもカーシェアリングより自分のクルマを所有するために他の贅沢を我慢してもいいと多くが答えたそうですから自動車産業の未来もまんざら暗くないのかもしれない。

乗ることだけでなく車内の装備を楽しめて、限りなく安全で、もちろん環境にも優しく、すると現代のクルマはどれも割高になってしまうのですが、Z世代の子供たちはさらにそれを安価で手に入れたいと望んでいるそうです。ここはひとつ自動車メーカー各社、いや業界が力を合わせて彼らの望みを叶えてあげられるような未来のクルマづくりに取り組まなければなりません。またZ世代は自動運転にも現在のドライバーたちより抵抗が少ないといえますから自動運転車の普及にも弾みがつくことでしょう。彼らがクルマを買って楽しんでくれる世界を彼らに残してやれるよう、私たちみんなが努力しなければなりませんね。

〈完〉

# 中部支部 環境部会主催 「コマツ栗津工場」視察報告

一般社団法人日本自動車部品工業会中部支部

環境部会 委員 細川 芳隆 (記)

(大同メタル工業㈱ 環境安全センター)

## 1. 訪問日時

2016年3月9日 (水) 13:00～15:00

## 2. 訪問先

株式会社小松製作所 栗津工場

## 3. 参加者

中部支部会員企業 15社22名

## 4. 訪問の目的

コマツの建設機械の生産拠点である栗津工場にて、ダントツの環境性能と生産性を合わせ持つ新組立工場と最新の省エネ設備を見学し、会員各社の省エネ活動に役立てる。

## 5. 視察の流れ

- ・コマツ会社概要と栗津工場の省エネ取組み説明
- ・新組立工場と省エネ施設見学

## 6. 会社概要

設立 1921年

売上高 連結1兆9,786億円 (内、建設機械  
1兆7,613億円)

建設機械の顧客内訳

日本・北米・欧州46%、その他56%

従業員 47,017名 (連結)

《更なる顧客ビジネスを視点をイノベーション  
による成長戦略を展開》

- ・ダントツ商品 (Phase 1 機械本体の商品力向上)
- ・ダントツサービス (Phase 2 機械の見える化 KOMTRAX)
- ・ダントツソリューション (Phase 3 ICT 建機・スマートコンストラクション)

《栗津工場概要と省エネ取組み》

設立 1938年

敷地面積 710,000m<sup>2</sup>

従業員 3,000名 (含む関係会社)

主要生産製品

油圧ショベル・ブルドーザ・ホイールローダ・モータグレーダ

### ①新組立工場で取り入れた技術

- ・最大柱間隔32mの広い空間と全面地下ピット構造

栗津工場において築40年を経過していた旧ホイール組立ラインと旧クローラ組立ラインの建屋更新に伴い、新組立工場へ統合し、組立ラインのコンパクト化をはかり、面積生産性を2倍に向上させた。

新組立工場の特長は「最大柱間隔32mの広い空間」(従前6～10m間隔から飛行機格納庫相当へ拡大)と「全面地下ピット構造」を採用。床板を外し、設備を移動させることで比較的容易にレイアウト変更を実現することができる。

また、配電盤や各配管などは床下空間に収納し、メンテナンス面でも向上するとともに、収納により作業場はフラットとなり、作業者の安全性にも考慮している。

- ・高効率空調システムを構築

栗津工場では白山水系の豊富な伏流水を利用した年間を通じて一定温度の地下水と地下ピットの躯体の地下熱を利用した高効率空調システムを構築している。

- ・床上2～3メートル成層空調を採用

機器をすべて地下ピットに収納し、空調も床からの吹き出しとして、作業エリアである床上2～3メートルのみを空調(成層空調)とすることで、快適性の向上と省エネ化を図っている。

## ②社会貢献活動（地方活性化への取り組み）の一環として

### ・木質バイオマス発電

地元の石川県「かが森林組合」と共同で、近隣の山林で放置されていた間伐材を有効利用した「木質バイオマス発電システム」を導入。森林組合から年間7,000トンの供給を受けるチップを燃料にしてボイラーを稼働。発生した蒸気を空気圧縮機・発電機・吸収式冷凍機で利用している。また、各施設からの排熱は10倍あり、排熱もエネルギーとして最大限活用している。運転は平日24時間で、発電した夜間電力は構内のバッテリーに蓄電している。これにより年間約1,400MWhの電力と約800klの重油の節約が見込まれるとのこと。



## ③栗津工場の新組立工場 プロジェクトの背景・進め方

2011年の東日本大震災による東京電力の原発事故に続き、2012年以降も全国的な電力不足が見込まれた状況において電力の大切さを知り、自分達でやれることはやるとのコンセプトで「新組立工場」設立プロジェクトに取り組み、ベテランと若手技術者の改善アイデアを結集した新工場となった。

## 7. 新組立工場見学

### ・バイオマス発電と蓄電システムの紹介

新組立工場へ向かうバスの車中より、バイオマス発電施設と蓄電バッテリーコンテナを見学。太陽光パネルやバイオマス発電の蓄電用として、フォークリフト用シールバッテリーを使用したコンテナの蓄電システムと稼働状況の説明を受けた。

### ・工場入口の壁にひのきを使用

工場見学入口の壁に地元ひのき材が貼られ、設置後2年間経っても香りが残っていた。

### ・工場全体

最大柱間隔32mの広い空間と全面地下

ピット構造の概要と構内の組立ライン（サブ組立ライン・メイン組立ライン）における生産工程及び作業役割の説明があり、空調も床から吹き出し、作業エリアである床上2～3メートルのみを成層空調により、夏場においても作業者は快適とのことである。

### ・天井の採光と調光式LED導入

天井からの採光を取り入れ、さらにLED照明を調光式とすることで、きめ細やかな照明の調節を可能としている。

### ・回生機能付きクレーン

天井クレーンでは、電力回生機能を付加してエネルギーの有効活用を図っている。

## 8. 所感

栗津工場では、年間購買電力量を「従来比90%削減に向けて挑戦」という高い目標を達成見込みとのことであるが、トップの考え、若手とベテランのアイデアが融合されたプロジェクトの進め方、省エネ・生産性向上・創エネのあらゆる改善と苦勞の集大成で達成しうるものだと視察を通じて改めて感じた。また、ダントツの環境性能と生産性をあわせ持つ未来を見据えた次世代の組立工場の見学をすることができ、たいへん有意義なものとなった。

最後にご多忙の中ご対応いただいたコマツ栗津工場の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

# 未来に挑戦 未来を創造 (つくる)

創業75周年を節目に次のステップへ



大野洋一社長

## 会社プロフィール



**本部** 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-8-11 (5-825 第一ビル)  
TEL.03-3501-5825 FAX.03-3502-5629

**資本金** 2630万円

**従業員** 261人 (2016年4月現在)

**事業所拠点** 本社/東京都港区虎ノ門1-8-11 (5-825 第一ビル)、東京  
管理本部/東京都足立区綾瀬2-2-5、喜連川工場/栃木県  
さくら市喜連川5779-1、馬頭工場/栃木県那須郡那珂川  
町大山田上郷937-5、遠野工場/岩手県遠野市青笹町中沢  
8地割1-9、矢板デリバリーセンター/栃木県矢板市越畑  
字明神前350-1

**代表者** 代表取締役社長 大野洋一

大野ゴム工業は今年、創業75周年を迎えた。大野洋一社長の父である大野金一名誉会長が昭和10年に出身の岐阜から東京へ、下宿前の掃除を欠かさずしていたのが縁で勤めた尾久乃護で修業し、16年に東京・虎ノ門にゴム関連の商いをする個人商店を立ち上げた。最初の転機は21年。「これからは自動車だ」と商社機能を強化し、23年には大野商店を設立する。自動車への需要が高まる中で、補修用パーツに欠かせないゴムの商いを伸ばしていった。さらなる転機が製造業、「メーカーへの転身」だ。東京オリンピックを起点によりよい商品を求めて、自らが製造する立場に。29年には早くも大野ゴム工業へと改称し、時代を先取りする。東京オリンピックを契機に開通した東海道新幹線にちなみ、「新幹線経営」と銘打ちスピード経営を進めた。小売り中心から、スピードアップした新幹線をいかし代理店のネットワーク化を進め、メーカーとしての機能を拡充していった。

## 将来を見据えてあらゆる領域を開拓

大野ゴムの歴史をも踏まえ、大野社長は「どれだけ先を見ることができるか」が大切だとする。75周

年を節目に、なにが今後の自動車業界として主体になっていくのか、さらに自社が持つ戦力や固有技術、商品群をいかにあてはめていくか、2015年からスタートした第七次中期五カ年計画を「未来に挑戦未来を創造 (つくる)」と定めた。自動車業界を振り返っても40～50年前とは取り巻く環境も含めて大きく変化している。それだけに、絶え間ない変化や未来をキャッチアップし、次世代を創造していく。

今年のテーマは「自動運転」だ。カメラやレーダー、レーザーファインダーなど20年前にはなかった技術が広がっている。こうした新しい動きに対し「技術を蓄え、商材を探していく」とする。自動車に特有の熱や振動に耐えうる技術は、燃料電池自動車をはじめとする次世代自動車への展開も見込む。自動運転に対しても自社の特性を活かした製品開発の分野を既に見出しつつある。自動車本体から離れた新たな分野にもチャレンジする。自社製品の顧客でもある整備工場向けに開発したリフト用のゴム「リフトパッド」も新たな分野となる。劣化したリフト用パッドの交換用ゴムで、「お困りだった」顧客に対応し、自社開発したという。補修用パーツで培った顧客と



遠野工場（岩手）



75周年 新年互礼会

の絆を大切にCSによるものづくりを実践すべくあらたな製品の開発にも注力する。補修用パーツでは顧客が必要なものを素早く検索できるITシステムを導入する。

## 国内で磨きをかける

現在の自動車関連の主力商品はドライブシャフトブーツやステアリングラックブーツ、ラジエターホース、タペットカバーパッキンなど、それぞれの分野でゴムの特性を活かし、伸ばした製品を開発し生産する。高品質な製品は栃木県さくら市の喜連川工場、那須郡の馬頭工場、平成19年に設立した岩手県遠野市の遠野工場と、いずれも国内生産によりOEM、アフターパーツ市場はもとより、グローバル市場へ供給する。遠野工場進出前には5年間ほど「アセアン地域を回った」という。海外進出か国内生産か。自社製品の特性、グローバルで通じる日本ブランドの双方をにらみ「国内で磨きをかける」と、遠野工場の設立を決めたという。

## 会員企業、顧客との接点を拡大

日本自動車部品工業会では、関東支部で経営研究会の座長を、本部では中小企業施策委員会の副委員長を務める大野社長。「事務局の努力もあり情報交換が活発化し勉強会をはじめ、完成車メーカー向けの商品展示会など顧客との接点を増やすステージ作りに役立っている」とする。東京モーターショーの共同出展では平成13年から8回連続で出展。顧客との接点拡大に効果を発揮しており、会員への更なる支援に期待を寄せる。



ドライブシャフトブーツ等



ラジエターホース等



タペットカバーパッキン等

## 行政・団体

### 2月.....

#### ■文科省と経産省、理工系人材育成へ行動計画骨子案 (26日)

文部科学省、経済産業省は理工系人材の育成に向けた行動計画の骨子案を固めた。

#### ■国交省、リコール対象範囲の見直し検討を示唆 タカタ製エアバッグ問題 (27日)

石井啓一国土交相は、タカタ製エアバッグ問題に関する中間報告内容を踏まえ、これまでのリコール対象範囲を見直す必要があるかどうか検討するよう、自動車メーカー各社に指示したことを明らかにした。

#### ■経産省、中小企業に手厚い支援 海外展開促す 新輸出大国コンソーシアム発足 (29日)

経済産業省は、環太平洋経済連携協定 (TPP) を活用した中小企業の海外展開を促す「新輸出大国コンソーシアム」を立ち上げた。

#### ■中企庁、販路開拓支援補助金の公募をスタート 対象は小規模事業者 (29日)

中小企業庁は、小規模事業者の販路開拓を支援する「小規模事業者持続化補助金」の公募を始めた。

### 3月.....

#### ■経産省、新産業構造ビジョン骨子 産学官の連携促進 (2日)

経済産業省は、IoT (モノのネット化) などをにらんだ「新産業構造ビジョン」の骨子をまとめた。

#### ■減らぬ自動生産設備の非定常作業時事故 中災防、安全ガイドライン見直し (5日)

中央労働災害防止協会 (中災防) は「自動生産設備における非定常作業の安全」のガイドライン見直し案をまとめ発表。

#### ■DE排ガス後処理装置、保護制御の範囲で指針 国交省検討会 (5日)

新型車の排ガス検査見直しに向けた国土交通省検討会の第2回会合がこのほど開かれ、国産4社 (トヨタ自動車、日産自動車、マツダ、三菱自動車) のディーゼル乗用車を検証したところ、独フォルクスワーゲン (VW) のような不正制御ソフトは確認できなかったことが報告された。

#### ■経産省、50年までに温暖化ガス8割削減 新たな長期目標策定 (5日)

経済産業省は、昨年12月に採択された世界規模の温暖化対策の枠組み「パリ協定」の達成に向けた「地球温暖化対策計画」案を新たにまとめた。

#### ■国交省、潤滑不良で火災の恐れ デフギアの点検通達 (7日)

国土交通省はこのほど、大型トラックやバスのデフアレナシヤルギア (差動装置) の油量点検や交換を確実にを行うよう、全日本トラック協会や日本バス協会などに通達した。

#### ■再び動き出す政府の温暖化対策計画、自動車業界も一丸で貢献 (12日)

政府の地球温暖化対策計画が4年ぶりに動き出す。国際公約である「2030年度に13年度比26%減」に加え、長期目標として「50年までに80%削減」を盛り込んだ。

#### ■国交相、乗用車の被害軽減ブレーキ 義務付予定なし (14日)

石井啓一国土交相は、衝突被害軽減ブレーキ (自動ブレーキ) を乗用車に義務付けることについて「現時点では義務付けの予定はない」と語った。

#### ■15年度の模倣被害率、アジアで依然深刻 最多は中国 (14日)

特許庁はこのほど、2015年度の模倣被害調査結果をとりまとめた。それによると、模倣被害を受けた企業の割合 (模倣被害率) は前年度と同水準の21.9%だった。

#### ■車両単位の相互認証制度発効、2018年に大幅ずれ込み (16日)

新型車の型式指定手続きを大幅に簡素化する「車両単位の相互認証制度 (IWVTAI)」の発効が今月中から2018年へとずれ込む見通しとなった。

#### ■経産省、FCV普及目標を明記 水素・燃料電池戦略ロードマップ改訂 (17日)

経済産業省は「水素・燃料電池戦略ロードマップ」の改訂案をまとめた。2030年までに燃料電池車 (FCV) を80万台、25年度に水素ステーション (ST) を320カ所普及させる目標のほか、官民による水素ST整備の新たな枠組みづくりなどを盛り込んだ。

#### ■経産省など自動走行検討会が報告書、隊列走行や自動パーキング (24日)

経済産業省と国土交通省は、「自動走行ビジネス検討会」の報告書をまとめ公表。

#### ■政府、18年から新燃費試験 “世界標準” のWLTPまず乗用車から (28日)

政府は、省エネ法に基づく告示などを今春にも改正し、乗用車の新たな燃費試験法「WLTP」を2018年から順次、導入する。

#### ■環境省、セルロースナノファイバー 自動車部品採用へ実証事業 参加企業を公募 (28日)

環境省は、植物繊維を成形した「セルロースナノファイバー (CNF)」を自動車部品へ導入する実証事業を2016年度から実施する。

#### ■車・部品メーカー、下請取引改善へ調査 政府がヒアリング (28日)

政府は下請取引の実態改善に向け、自動車メーカーや自動車部品メーカーを対象に中小企業との取引状態についてヒアリングを4月に行う方針を決めた。

#### ■国交省、車両衝突など基準を厳しく (29日)

国土交通省は、車両衝突基準やバックミラー (間接視界) に関する基準を厳しくする方針を明らかにした。

#### ■経産省、完全自動運転2030年の実現に向けてロードマップ作成 (30日)

経済産業省は、2030年時の産業構造をにらんだ「新産業構造ビジョン」に盛り込む自動運転技術のロードマップ (行程表) 案をまとめた。

### 4月.....

#### ■中小企業庁、下請取引の実態改善へ大企業向け調査 (2日)

中小企業庁は下請取引の実態改善に向けて行った大企業向け調査の結果を公表した。

#### ■国交省、ハンブや狭窄部に技術基準 (4日)

国土交通省は、通過車両の速度を下げさせる道路の凸部 (ハンブ) や狭窄 (きょうさく) 部などの技術基準をまとめ、地方整備局に



通知した。

■**リコール、15年度は過去最多1900万台 タカタが半数「100万台超」続発(5日)**

国土交通省はリコール(回収・無償修理)の年間台数が4年連続で増え、2015年度は1969年の制度創設以来、過去最高の1899万637台(速報値)になったと発表。

■**経産省、部品の“モデルベース”開発 共通ガイドライン策定(6日)**

経済産業省は、自動車部品の開発や評価をコンピューター上で行う「モデルベース開発」の共通ガイドラインをつくる。

■**中小部品、ベア平均1522円 目標上回る ゼロ回答3割、厳しい実態も(6日)**

中堅・中小製造業の労働組合で組織するものづくり産業労働組合(JAM)は、3月31日までに傘下の労組全体の4割弱にあたる623組合が会社側からの回答を得た。

■**経産省、増加する工場事故 産業保安策にIoT活用(13日)**

経済産業省は、IoT(モノのネット化)やビッグデータを駆使した産業保安策を広げる。

■**タカタ製エアバッグ改修率 3月末現在54.3%(14日)**

国土交通省はタカタ製エアバッグのリコール(回収・無償修理)進捗状況を公表。

■**NEDO、高品質薄型のSiCウエハーを開発(18日)**

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、東洋炭素と関西学院大学との共同プロジェクトで「炭化ケイ素(SiC)高品質薄板エピウエハ」の製品開発に成功した。

■**国交省、自動車の騒音規制強化、使用過程車 相対値規制を導入(21日)**

国土交通省は、自動車の騒音規制を強化する。

■**経産・環境省、中古エアバッグ規制に本腰(25日)**

国は中古エアバッグ部品の流通を実質的に規制する検討に入った。

## 国内

2月.....

■**住友理工、ファイラーパイプ 樹脂製で4割軽量化、日本車に初供給(26日)**

住友理工は、金属製に比べて4割軽量化した樹脂製燃料ファイラーパイプを開発した。

■**タカタ、自動車メーカーに経過報告 エアバッグ異常原因調査(27日)**

タカタは自動車メーカーに対してエアバッグのインフレーター(ガス発生装置)の調査に関する経過報告を25日に行ったことを明らかにした。

■**トヨタ今年の調達方針 TNGA「これらが本番」仕入先に協力要請(29日)**

トヨタ自動車は、名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)で開いたグローバル仕入先総会で2016年の調達方針をサプライヤー各社に伝えた。

3月.....

■**STYLE-D、次世代リチウム電池発売 鉛電池比10倍の長寿命(3日)**

自動車や輸送機器などの開発、製造、販売などを手掛けるSTYLE-D(スタイルディー、岐阜県関市)は、次世代リチウムバッテリー「OZ(オーゼット)」の販売を今秋に開始する。

■**トヨタ、製品軸の7カンパニーに移行(4日)**

トヨタ自動車は、車種など製品軸で七つのカンパニー体制に移行する組織改正を4月18日付で実施する。

■**2016自動車春闘 部品メーカー、テーマは「格差是正」(5日)**

2016年の春闘がスタートし、部品メーカーでも労使交渉が始まった。

■**藤倉ゴム、水を加えると発電 非常用マグネシウム空気電池を被災経験元に開発(8日)**

藤倉ゴム工業は、水を加えることで発電が可能な非常用のマグネシウム空気電池を開発した。

■**横浜ゴム、独コンチネンタルと提携解消 戦略上の補完 役目を終える(10日)**

横浜ゴムと独コンチネンタルは、新車用タイヤ(OEタイヤ)供給に関する合弁契約を解除する。

■**ホンダ、SiCパワー半導体 車載用で世界初(11日)**

新型クラリティに搭載した、最大500ボルトまで昇圧する新開発のFC昇圧コンバーター(FCVCU)には、量産車では世界初となる「シ

## クローズアップ

**日産自動車と日本郵便、  
「ケンメリ」のオリジナルフレーム切手セット販売へ(3月7日付)**



スカイライン切手

日産自動車と日本郵便南関東支社は、オリジナルフレーム切手セット「名車コレクション 日産スカイライン2000GT-R編」を18日に発売すると発表した。昨年9月に発売した同シリーズ「ハコスカ」に続く第2弾。今回は「ケンメリ」の愛称で親しまれた4代目を題材にした。52円切手10枚とミニカー、台座、収納ボックスをセットにして、神奈川県内の郵便局と東京中央局の合計751局で販売する。

リコンカーバイド・インテリジェントパワーモジュール(SiC-IPM)」を採用した。

■**ジェイテクト、19年度末に女性管理職を2.5倍に(16日)**

ジェイテクトは、2019年度末に女性管理職を現状の2.5倍となる40人に拡大する。

■**2016自動車春闘 日産3000円、トヨタ1500円 3年連続実現もベア昨年を下回る(17日)**

賃金・一時金に関する2016年春の労使交渉(春闘)が、大手企業の一斉回答日を迎えた。日産自動車が賃金改善分として自動車メーカー最高額の3000円と組合の要求に対し満額回答したのをはじめ、トヨタ自動車が1500円、ホンダが1100円など賃上げ回答が相次ぎ、一時金はほぼ昨年水準並み以上の満額回答となった。

■**自動車メーカーと部品メーカー、災害時にも有効な供給網構築へ意見交換(23日)**

災害時の部品供給に関する日本版事業継続計画(BCP)確立へ、自動車メーカーと部品メーカーによる意見交換が始まった。

■**愛知製鋼、最終赤字 復旧費用で損失90億円、16年3月期(24日)**

愛知製鋼は、2016年3月期の連結業績で純損益が18億円の最終赤字になる見通し。

■**ケーヒン、FCV用水素バルブ 国連技術基準に世界初の適合(26日)**

ケーヒンは、燃料電池車(FCV)用高圧水素バルブで国連の圧縮水素自動車燃料装置用付属品技術基準「UN グローバルテクニカルレギュレーション(GTR)ナンバー13」に、世界で初めて適合した。

■**横浜ゴム、オランダ社を買収 農機・林業用タイヤ参入(28日)**

横浜ゴムは、農業機械や建設機械用タイヤを手がけるオランダのアライアンス・タイヤ・グループ(ATG)を買収する。

■**トヨタ、愛知製鋼の爆破事故 生産挽回時期8、9月頃に(29日)**

トヨタ自動車は、愛知製鋼の爆破事故により、約1週間にわたって休止した国内の完成車工場の生産挽回時期について、8、9月頃になる見通しを明らかにした。

■**パナソニックAIS、暑さ寒さを識別 空調快適化へ新技術(29日)**

パナソニックのオートモティブ&インダストリアルシステムズ社(大阪府門真市、AIS社)は、赤外線アレキセンサー「Grid-EYE(グリッドアイ)」を用いた温冷感推定アルゴリズムを開発した。

■**トヨタ・日産・ホンダ、高精度3D地図を共通化 自動運転で活用(30日)**

トヨタ自動車、日産自動車、ホンダの国内大手自動車メーカー3社は、自動運転車向けの高精度リアルタイム3Dマップを共通化することでほぼ合意した。

■**ソフトバンク、時度運転技術で新サービス参入(30日)**

ソフトバンクは、東京大学発ベンチャー企業で自動運転車関連技術を開発する先進モビリティ(東京都目黒区)と提携し、自動運転技術を活用した新サービスの事業化に参入する。

■**仏の水素関連企業、日本市場に注目 調達・供給先探す(31日)**

フランスの水素・燃料電池関連企業が日本市場に注目している。

## 4月.....

- UDトラックス、ユニキャリアに羽生工場を譲渡(1日)  
UDトラックスは、羽生工場(埼玉県羽生市)をユニキャリアに譲渡することで合意した。
- トヨタ紡織、欧州内装事業を再編 トヨタに集中、特損227億円(2日)  
トヨタ紡織は、欧州でトヨタ自動車向け以外の内装事業を売却する。
- トヨタ、マイクロソフトと協業 走行車の情報集約(5日)  
トヨタ自動車は、マイクロソフトと共同で、車両から得られる情報の集約と解析、商品開発への反映を目的とする新会社トヨタ・コネクティッド(TC)を米テキサス州プレイノに設立した。
- ショーワ、カナダで競争法違反 11億円の罰金支払い(5日)  
ショーワは、電動パワーステアリングの過去の取引でカナダの競争法に違反していたとし、同国オンタリオ州の裁判所から罰金1300万カナダドル(約11億円)の支払いを命じられたと発表。
- 鬼怒川ゴム、メキシコ子会社への債権を放棄(6日)  
鬼怒川ゴム工業は、メキシコの連結子会社キヌガワメキシコに対する債権の一部を放棄することを決め、2016年3月期の個別決算で特別損失を計上する。
- 日産、ドライバーの感情EVの周囲に投影(14日)  
「スゲェ!」一日産自動車は、ドライバーの運転中の脳波を測定し、これ言語化して車両周辺に投影する機能を備えた電気自動車(EV)「リーフ」を制作した。
- 熊本地震 トヨタ、大半の工場休止 部品供給が途絶(19日)  
トヨタ自動車は、熊本地震の終息が見通せないことから、人命と地域の復旧への貢献を優先しつつ生産再開を探る方針だ。
- 熊本地震 自動車メーカーに波及 状況踏まえ生産再開(19日)  
ダイハツ工業は子会社、ダイハツ九州(大分県中津市)の大分(中津)工場と久留米工場(福岡県久留米市)を18~22日まで、京都工場(京都府大山崎町)を20~23日まで休止する。
- 熊本地震 部品生産・供給に支障(19日)  
九州-熊本地方を震源とする地震によって熊本県内のサプライヤーが被災し、部品の生産・供給に支障が出始めている。
- トヨタ、25日以降にも生産再開 部品確保にめど(21日)  
トヨタ自動車は、熊本地震の影響で稼働を止めていた国内生産工場を、週明けの25日以降、段階的に再開すると発表。
- アイシン精機、代替生産でドア部品供給開始(21日)  
アイシン精機は熊本地震によって工場が被災し、生産を停止しているドア部品などについて、国内外のグループ会社による代替生産・供給を開始したことを明らかにした。
- アイシン精機、地震からの復旧には時間 代替生産で乗り切る(23日)  
アイシン精機は、熊本地震で被災した子会社アイシン九州(熊本

市南区)の生産復旧には時間がかかると判断し、当面の間、国内外のグループ工場での代替生産によって自動車メーカーへの供給をカバーする。

- 〈三菱自燃費不正〉生産停止の水島工場 周辺事業者の影響把握へ(25日)  
三菱自動車の燃費不正問題に関連し、経済産業省は同社水島製作所の生産停止による影響が周辺の製造事業者にとどの程度の影響を及ぼすか調査する方針を明らかにした。

## 海外

- 2月.....
- 3月.....
- ハーマンとNXP、V2X通信で協力  
米ハーマンインターナショナルとオランダのNXPセミコンダクターズは、セキュアなV2X(車車間・路車間)通信で協力したと発表。
- グッドイヤー、自動運転用タイヤ公開 球状で機動性アップ(22日)  
米グッドイヤータイヤ&ラバーカンパニー(GY)は、スイスで開催された「第86回ジュネーブモーターショー」で自動運転車向けに次世代コンセプトタイヤを公開。
- UACJ、米アルミニウム部品メーカー買収(26日)  
UACJは、アルミニウム製の自動車部品や構造材を製造・販売する米国企業を買収する。
- 4月.....
- ランクス、サウジとの合弁会社設立完了(12日)  
独ランクスは、サウジアラビア国営石油会社サウジアラムコとの合成ゴム事業の合弁会社設立を完了した。

## 市場

- 2月.....
- 3月.....
- 15年の合わせ安全ガラス出荷、3年ぶり増加(2日)  
板硝子協会は2015年の「板ガラス生産出荷動向」を発表。
- 15年ゴム製品国内出荷額、タイヤ3年ぶり減(10日)  
日本ゴム工業会は、2015年のゴム製品の国内出荷金額を集計した。主力の自動車タイヤは前年比5.9%減の1兆2334億円で、3年ぶりの減少となった。
- 4月.....
- 15年度新車市場、アクア4年連続首位 N-BOXが初の2位(7日)  
2015年度の新車販売の車名別順位(軽自動車含む)は、トヨタ「アクア」が4年連続の首位となった。
- 15年度環境対応車販売 クリーンDE5割増(9日)  
登録乗用車販売台数に占める環境対応車の勢力図に、にわかに変化が表れ始めた。

## 記者の目

### 自動車業界に2つの激震ともいえる出来事が相次ぐ

新年度を迎えた4月、自動車業界では大きな出来事が相次いだ。一つは熊本地震。最大震度7の揺れを観測し、今も余震が続いているこの地震で、トヨタ自動車は一時的にほぼ全ての完成車工場で生産を休止した。東京での直下型地震や東海・東南海地震に対する警戒は強まっていたが、九州をこのような大地震が襲うとは思ってもよらなかった。

九州にはトヨタのほかダイハツ工業、日産自動車、日産車体、そしてホンダの二輪車工場がある。とりわけ四輪車の生産では今や九州は愛知県に次ぐ集積地となっている。今回の地震ではアイシン精機など震源地に近いサプライヤーの工場やホンダの工場が被災したが、代替生産の検

討も早い段階で始まった。5年前の東日本大震災の経験を生かし、リスク対策が進んだ成果と言えるだろう。

もう一つ、業界を驚かせた出来事が三菱自動車の燃費データ不正だ。2000年のリコール問題以降、同社はコンプライアンスを強化してきたはずなのに同じことを繰り返した。しかも日産自動車の指摘で判明したというから、自浄作用の無さを露呈したのも同然だ。自動車メーカーとしての資質さえ疑わざるをえない。

三菱自は真面目にやってきた社員やサプライヤー、そして販売会社を裏切っただけではない。日本の自動車産業全体の信頼を損ないかねない事態を招いたことに、“なぜ?”という疑問を拭いられない。(K)



このダイジェストは2月26日~4月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

# 指標・統計

## ■自動車の生産・販売・輸出 (自工会調) .....

### 1. 四輪車の生産実績

(単位：台)

	2015. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2016. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	641,058	98.7	7,830,722	94.6	628,784	85.2	628,784	85.2
普通車	399,772	110.6	4,744,471	101.9	395,936	97.4	395,936	97.4
小型四輪車	119,410	92.1	1,555,548	88.8	115,530	72.5	115,530	72.5
軽四輪車	121,876	77.1	1,530,703	81.9	117,318	68.1	117,318	68.1
トラック	98,297	91.6	1,309,653	96.5	94,004	85.2	94,004	85.2
バス	10,421	98.9	137,850	98.6	10,194	81.2	10,194	81.2
合計	<b>749,776</b>	<b>97.7</b>	<b>9,278,225</b>	<b>94.9</b>	<b>732,982</b>	<b>85.1</b>	<b>732,982</b>	<b>85.1</b>

### 2. 四輪車の国内販売実績

(単位：台)

	2015. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2016. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	307,859	85.4	4,215,889	89.7	328,994	75.9	328,994	75.9
普通車	111,516	109.7	1,354,541	94.2	118,184	86.8	118,184	86.8
小型四輪車	92,811	95.9	1,349,944	94.9	92,200	71.9	92,200	71.9
軽四輪車	103,532	63.9	1,511,404	82.2	118,610	70.0	118,610	70.0
トラック	60,485	85.5	817,235	96.0	52,909	85.5	52,909	85.5
バス	1,116	134.6	13,387	111.7	973	167.5	973	167.5
合計	<b>369,460</b>	<b>85.5</b>	<b>5,046,511</b>	<b>90.7</b>	<b>382,876</b>	<b>77.2</b>	<b>382,876</b>	<b>77.2</b>

### 3. 四輪車の輸出実績

(単位：台)

	2015. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2016. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
乗用車	364,648	112.1	3,970,003	103.5	300,031	105.0	300,031	105.0
普通車	343,287	110.6	3,759,771	104.6	280,645	106.9	280,645	106.9
小型四輪車	21,192	141.6	205,727	86.0	18,989	82.5	18,989	82.5
軽四輪車	169	95.5	4,505	183.4	397	215.8	397	215.8
トラック	35,326	81.4	466,776	95.6	26,230	87.4	26,230	87.4
バス	11,891	96.7	141,299	99.8	9,295	85.4	9,295	85.4
合計	<b>411,865</b>	<b>108.1</b>	<b>4,578,078</b>	<b>102.5</b>	<b>335,556</b>	<b>102.7</b>	<b>335,556</b>	<b>102.7</b>

## ■自動車部品の生産・輸出・輸入 .....

### 1. 自動車部品の生産 (経済産業省「生産動態統計」)

(単位：百万円)

		2015. 12月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2016. 1月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
総括	自動車部品 41品目	511,046	100.7	6,273,164	98.6	497,554	96.6	497,554	96.6
	関連自動車部品 9品目	113,967	109.1	1,328,723	103.9	109,486	104.6	109,486	104.6
	内燃機関電装品 5品目	34,378	99.6	406,939	99.3	30,470	93.7	30,470	93.7
	二輪車部品 4品目	6,154	101.4	69,823	101.9	5,419	88.6	5,419	88.6
	合計	<b>665,545</b>	<b>102.0</b>	<b>8,078,649</b>	<b>99.5</b>	<b>642,929</b>	<b>97.6</b>	<b>642,929</b>	<b>97.6</b>

# 指標・統計

		2015. 12月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2016. 1月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,070	92.0	40,439	97.9	3,047	91.5	3,047	91.5
	2	ピストンリング	3,154	93.0	41,056	97.9	3,129	93.3	3,129	93.3
	3	シリンダーライナ	1,658	100.9	20,425	93.3	1,611	93.4	1,611	93.4
	4	吸気弁及び排気弁	3,412	101.4	39,785	95.7	3,250	99.7	3,250	99.7
	5	ガスケット	2,352	98.9	28,585	96.5	2,284	95.8	2,284	95.8
	6	燃料ポンプ	1,601	85.1	20,057	87.7	1,406	73.6	1,406	73.6
	7	空気清浄器	1,979	94.5	25,468	102.6	1,935	90.0	1,935	90.0
	8	油清浄器	1,689	95.2	21,590	95.9	1,694	95.5	1,694	95.5
	9	油ポンプ	1,979	87.1	25,667	90.0	2,359	99.2	2,359	99.2
	10	水ポンプ	1,821	74.7	26,697	93.7	1,929	81.2	1,929	81.2
	11	ラジエータ	14,862	79.6	178,975	82.7	14,382	85.7	14,382	85.7
	12	クラッチ装置	5,848	110.7	69,771	110.1	5,723	117.8	5,723	117.8
	13	自動変速装置	171,666	101.8	2,099,092	99.2	166,085	95.9	166,085	95.9
	14	ユニバーサルジョイント	2,827	83.1	37,739	87.8	2,942	87.8	2,942	87.8
	15	プロペラシャフト	4,423	101.9	54,423	97.4	4,356	99.2	4,356	99.2
	16	車輪	8,006	97.9	98,252	100.7	7,823	98.3	7,823	98.3
	17	かじ取りハンドル	2,970	77.2	40,280	82.5	2,829	72.2	2,829	72.2
	18	ショックアブソーバ	10,729	100.5	154,348	116.5	10,692	102.8	10,692	102.8
	19	ブレーキ倍力装置	2,077	91.6	36,754	106.9	2,154	91.2	2,154	91.2
	20	ブレーキシリンダ	3,707	106.6	43,624	59.9	3,485	98.4	3,485	98.4
	21	ブレーキパイプ	2,618	93.0	34,499	106.4	2,504	91.5	2,504	91.5
	22	ブレーキシュー	2,690	101.1	32,428	95.3	2,476	93.8	2,476	93.8
	23	燃料タンク	6,932	101.8	79,302	91.4	6,848	100.2	6,848	100.2
	24	排気管及び消音器	26,139	101.8	304,844	93.9	27,851	105.2	27,851	105.2
	25	窓わく	2,456	99.3	58,559	180.2	2,456	93.4	2,456	93.4
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	6,648	92.0	78,152	82.5	6,323	85.9	6,323	85.9
	27	窓ガラス開閉装置	4,280	88.4	54,670	96.9	4,012	89.0	4,012	89.0
	28	シート	70,342	110.4	782,845	98.8	67,469	101.6	67,469	101.6
	29	スイッチ類	13,165	97.6	220,782	134.0	12,342	89.1	12,342	89.1
	30	計器類	11,314	102.6	136,793	103.1	10,440	104.1	10,440	104.1
	31	窓ふき	6,838	97.4	88,743	101.4	6,259	92.2	6,259	92.2
	32	警音器	1,436	108.5	22,534	138.7	1,385	104.4	1,385	104.4
	33	暖房装置	5,899	75.6	87,259	85.5	5,880	70.4	5,880	70.4
	34	電子式ブレーキ制御装置	13,962	89.5	173,569	95.1	13,559	91.3	13,559	91.3
	35	シートベルト	7,737	117.2	97,737	108.4	7,649	104.6	7,649	104.6
	36	エアバッグモジュール	6,982	103.4	82,077	95.7	7,414	108.3	7,414	108.3
	37	気化器・燃料噴射装置	21,427	117.8	246,565	101.1	21,526	104.5	21,526	104.5
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	35,196	101.2	405,440	94.2	33,451	95.6	33,451	95.6
	39	軸受メタル	4,273	112.3	46,722	95.9	3,805	98.8	3,805	98.8
	40	ブッシュ	2,633	98.6	33,617	102.0	2,551	93.5	2,551	93.5
	41	オイルシール	8,249	95.3	103,000	97.0	8,239	94.1	8,239	94.1
		<b>合計</b>	<b>511,046</b>	<b>100.7</b>	<b>6,273,164</b>	<b>98.6</b>	<b>497,554</b>	<b>96.6</b>	<b>497,554</b>	<b>96.6</b>
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	9,623	107.3	105,658	103.4	8,143	97.4	8,143	97.4
	2	かさね板ばね	2,117	90.8	28,333	100.2	1,996	86.3	1,996	86.3
	3	つるまきばね	1,693	97.5	20,694	87.6	1,648	94.0	1,648	94.0
	4	線ばね	4,653	98.0	56,678	97.8	4,382	97.9	4,382	97.9
	5	カークーラー	25,081	109.0	300,303	100.9	24,591	101.2	24,591	101.2
	6	自動車用器具	36,938	124.0	399,143	111.1	35,519	115.2	35,519	115.2
	7	自動車用電球	726	76.1	10,664	92.3	718	78.7	718	78.7
	8	カーオーディオ	5,065	150.4	55,126	130.0	4,727	163.3	4,727	163.3
	9	カーナビゲーションシステム	28,071	95.0	352,124	98.9	27,762	96.4	27,762	96.4
			<b>合計</b>	<b>113,967</b>	<b>109.1</b>	<b>1,328,723</b>	<b>103.9</b>	<b>109,486</b>	<b>104.6</b>	<b>109,486</b>

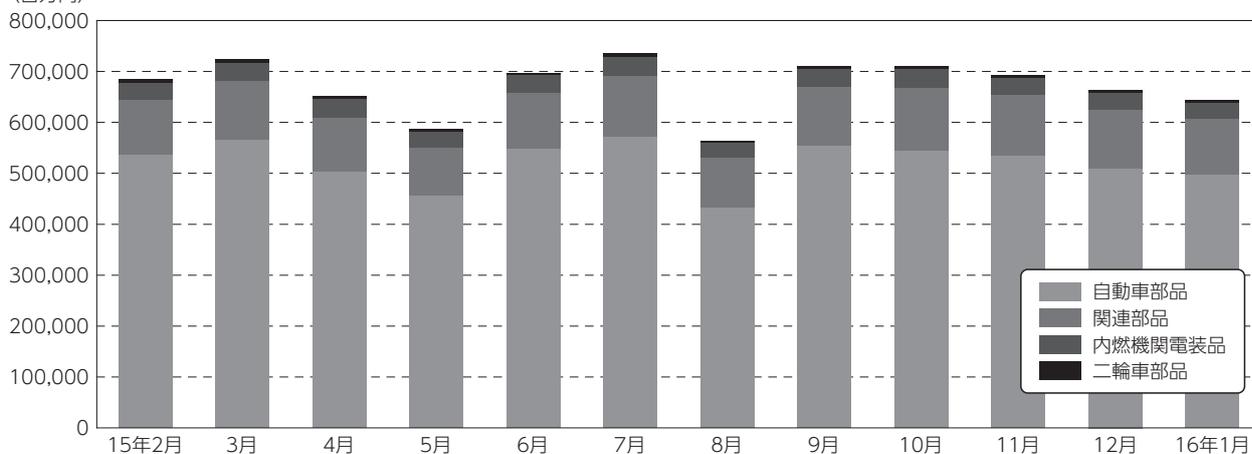
			2015. 12月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2016. 1月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1	ダイナモ	7,231	101.0	83,948	98.5	6,886	103.8	6,886	103.8
	2	スタータ	8,494	104.6	98,007	100.7	7,300	93.3	7,300	93.3
	3	ディストリビュータ	490	73.2	6,919	88.4	431	72.1	431	72.1
	4	イグニッションコイル	7,422	111.0	85,605	102.3	6,484	100.5	6,484	100.5
	5	プラグ	10,741	90.4	132,460	97.7	9,369	84.9	9,369	84.9
		合計	34,378	99.6	406,939	99.3	30,470	93.7	30,470	93.7
二輪自動車 部品 (4品目)	1	気化器	838	96.1	9,582	101.4	767	87.9	767	87.9
	2	ショックアブソーバ	2,176	100.9	24,931	100.3	1,975	89.2	1,975	89.2
	3	計器類	923	86.5	12,725	92.0	858	76.4	858	76.4
	4	ブレーキ装置	2,217	112.1	22,585	110.7	1,819	95.5	1,819	95.5
		合計	6,154	101.4	69,823	101.9	5,419	88.6	5,419	88.6

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

- ①平成21年1月より「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。
- ②平成23年1月より「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。
- ③平成26年1月より品目の掲載順序を一部変更。
- ④平成26年1月より「エアバッグモジュール」の定義を変更。  
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。  
接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。
- ⑤平成26年1月より「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

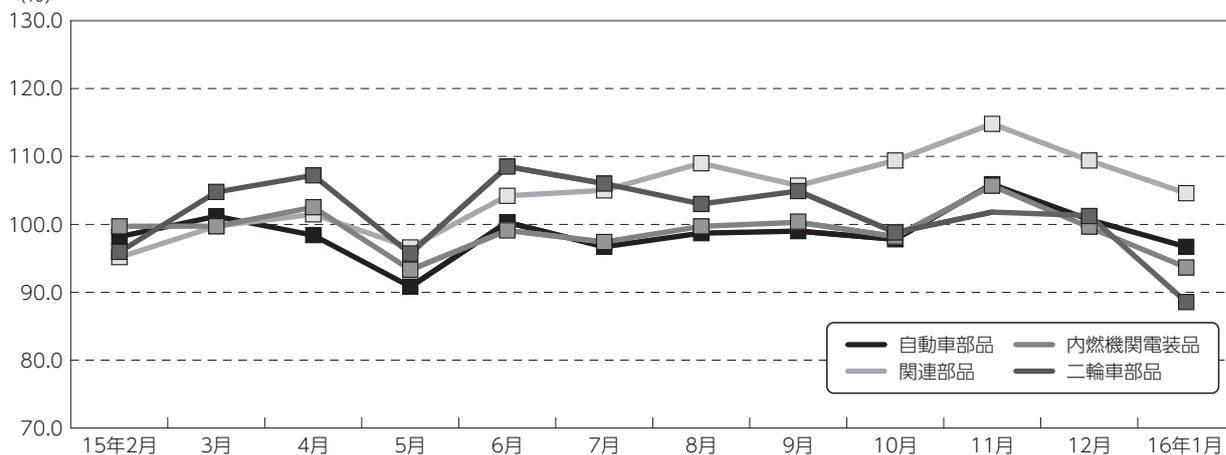
## ■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



## ■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



## 目次

- 05 | **巻頭言**  
副会長・藤森 文雄
- 07 | **特集 情報セキュリティ対策**  
—企業認識と実事件の乖離、今企業がうつべき対策とは—  
日本ユニシス株式会社 セキュリティスペシャリスト 井上 寛
- 11 | **新連載 企業の海外危機管理講座 Vol.1**  
**悪化する世界の治安と日本企業の海外安全対策の実態**  
安全サポート株式会社
- 13 | **第15回技術展示商談会アンケート調査**
- 17 | **連載 DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.9**  
**消費の回復が足踏みしている背景**  
日本政策投資銀行
- 19 | **工業会業務レポート・スケジュール**
- 24 | **北米事務所だより Vol.118**
- 25 | **支部活動レポート**  
中部支部視察報告 環境部会
- 27 | **会員企業紹介**  
大野ゴム工業株式会社
- 29 | **日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト**
- 32 | **指標・統計**

平成28年5月15日発行  
(隔月1回15日発行)

### ■発行所

一般社団法人  
日本自動車部品工業会  
〒108-0074  
東京都港区高輪1-16-15  
電話 03-3445-4212  
FAX 03-3447-5372

### ■編集

日刊自動車新聞社  
〒105-0012  
東京都港区芝大門1-10-11  
芝大門センタービル3階  
電話 03-5777-2351(代表)

### ■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

JAPIA会員企業様向け  
最新のTS16949セミナーの情報・案内等は… [www.lapj.co.jp](http://www.lapj.co.jp) まで

ISO教育コンサルティング  
株式会社エルエーピー

**LAP** ISO  
Lead Auditor Project Team



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email : iso@lapj.co.jp

# どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

## パソコンやスマホでニュースをチェック!

新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、  
業界動向をリアルタイムでお伝えします。  
電子版でしか読めないコンテンツが満載。  
気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。

外出時や出張先、  
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした  
空き時間を利用して気になる記事  
をチェックできます。

速報  
機能



ウェブ  
限定記事



スマホからも  
見られるわ!



過去の記事もすぐに探せる!  
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの  
記事検索もラクラク。期間を指定  
しての検索もできます。

過去の記事  
2013年  
2012年  
2011年  
2010年

これは  
便利だ!



これでビジネスの幅が  
広がります!

社内では新聞本紙  
外出先では電子版  
使い分けると便利だな!



無料のお試し購読はこちらから

検索

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11

芝大門センタービル3階

TEL: 03-5777-2318

FAX: 03-5777-2319

E-mail: hanbai@njd.jp

# 「企業は人」 材育成

環境が変化しても

長し続ける

人材を育てる

人材育成制度

**037** 社

目標設定研修

**075** 回

評価者能力研修

**540** 回

昇格者選抜評価

**143** 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・イーアイ株式会社  
 アイシン化工株式会社  
 アイシン機工株式会社  
 アイシン軽金属株式会社  
 アイシン・コムクルーズ株式会社  
 株式会社アイシン・コラボ  
 アイシン精機株式会社  
 アイシン辰栄株式会社  
 アイシン高丘株式会社  
 NTN 株式会社  
 株式会社キャタラー  
 埼玉工業株式会社  
 株式会社ソミック石川  
 津田工業株式会社  
 株式会社デンソーエアシステムズ  
 株式会社デンソーセールス  
 デンソーテクノ株式会社  
 トヨタ自動車株式会社  
 株式会社豊田自動織機  
 浜名湖電装株式会社  
 浜名部品工業株式会社  
 豊生プレーキ工業株式会社  
 マブチモーター株式会社 他 (50音順)

株式会社シナジーパワー

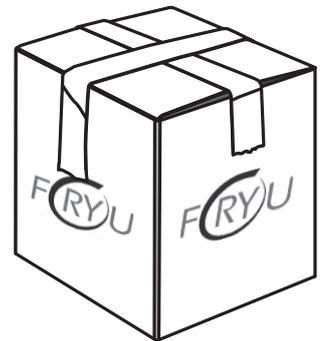
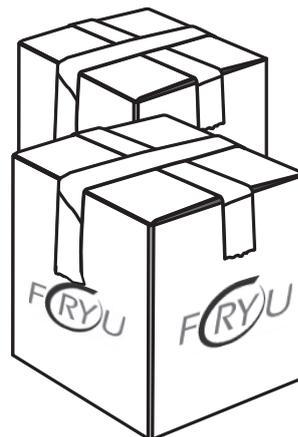
愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F  
 TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002  
 E-MAIL info@synergy-power.co.jp

日本から中国へ、中国から日本へ、  
 航空貨物より速く、  
 クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、  
**¥10,000** より

フォーユーエクスプレス

日本    
 中国間



同日即配！通関業務もお任せ下さい！

**最速**

安心、確実、丁寧な  
 ハンドキャリーで  
 皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp  
 FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/



フォーユーエクスプレス | 検索

# 自分の限界を 自分で決めるな。

トヨタ紡織は常に挑戦を続けてきた。

「快適」という数値化の困難な課題に対して、  
運転時の揺れや振動の再現、  
シートにかかる圧力の分布を計測することで、  
“乗り心地”を科学的に分析し、日々あくなき追究を重ねている。

わたしたちが恐れているのは、  
「できない」と思いこんで、これからの成長の芽を摘んでしまうこと。  
不可能と思った瞬間に、人は思考をやめてしまうものだ。  
「どうすればできる？」 そう問い直してみるだけで、  
目の前に立ちはだかっていた壁は、超えるべきハードルへと姿を変える。  
次の瞬間には、きっとあなた自身がそのハードルの超え方を模索し始めている。

トヨタ紡織にとっての次のハードルは、乗り物の種類という領域を超えること。  
どんな乗り物でも、トヨタ紡織の「快適な乗り心地」を体感してもらうには、何ができるか。

トヨタ紡織の「快適な乗り心地」に関する技術への挑戦に、限界はない。

トヨタ紡織が生み出す製品は、様々な領域に広がっています。



シート



ドアトリム



エアクリナー



ハイブリッドシステム用  
モーターコア構成部品



北陸新幹線グランクラス搭載シート



航空機シート

もっとワクワクする明日へ

アイシンの歴史は、挑戦の歴史。

成功と失敗を繰り返しながら、

技術を磨き、品質を究め、

めざすのは、かけがえのない存在。

豊かでワクワクする未来を届けるために、

アイシンの挑戦は終わらない。

FOR  
A BETTER  
TOMORROW



*For a Better Tomorrow*

**AISIN GROUP**